

上地の風（第十号）

ふるさと上地 7

岡崎市立上地小学校

上地の風（第十号）

上地

岡崎市立上地小学校

はじめに

本年は、学区・学校創立十一周年にあたり、学区並びに関係者の皆様方のご協力を得ながら新たな気持ちで学校教育を進めることができました。

上地っ子風車「びゅう太君」は風に向かって元気に回り、その発電によって、なかよし池の水車も勢いよく回っています。コイも喜んでいるようです。

学区との連携を深め、郷土の歴史・文化・自然を大切にしていくながら、伝統を受け継ぐと共に、生涯学習の基礎を培うべく読書指導に力を注いできました。

学区と学校をつなぐパイプ役として毎月「学校だより上地」を作成しお送りしておりますが、学区のみなさんからの学校によせる励まし、要望、資料提供も含め、その絆を一層強めてまいりました。

ここに本年度分を集約して『ふるさと上地第七集』を発行することができました。ご支援頂きました皆様にお礼申し上げます。一年一年を大切にしながら、さらに新しい一歩を進めたいと思います。今までと変わらぬご支援ご指導を心からお願い申し上げます。

平成六年三月

岡崎市立上地小学校長 深津 武司

目次

一、ふるさとシリーズ

一、紹介します新上地八景絵はがき	その1	1
二、紹介します新上地八景絵はがき	その2	4
三、上地戦没者「慰霊碑」建立される		7
四、環境美化と自然保持		15
五、六十年前の「上地水車小屋」を追って		21
六、実録「大谷池の大蛇」物語		32
七、上地八景を歩く会に参加して		44
八、『上地学区探訪』学区の石碑調べ		51
九、学級文化活動 上地の生き物調査をとおして		62
十、別れ近き水鳥たちを見ませんか		71

二、校長通信

一、さわやかな一日のはじまり	77
二、大谷公園はわれらの学習園だ	80
三、進みながら考える	82
四、燃える 上地っ子	84

三、教室の窓

五、自分のよさを生かして	86
六、さあ 読書月間 心豊かに	88
七、修学旅行お帰りのさい	91
八、学級文化の創造にむけて	93
九、イヌ年を迎えて	95
十、心のままの姿を撮る	97
一、一年生との交流から	101
二、観天望気	104
三、グリーンピースランド	108
四、三年生の短い夏	113
五、みんなで野菜を育てたよ	117
六、おいも集会にむけて	121
七、同一作家の本を読んで、発表会をしよう	124
八、自分の身長はおよそ何センチ？校舎の高さはおよそ何m？	130
九、自信を持って演じよう	135
十、なわとびに挑戦	139

「ふる里通信」の発行

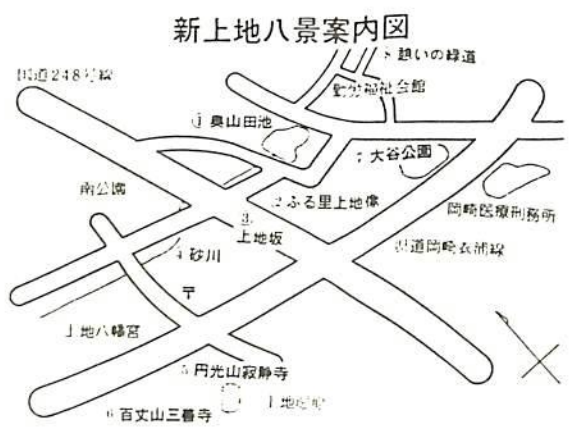
紹介します。新上地八景絵はがき その1

上地小学校 長坂 信一

平成五年三月、岡崎市上地学区家庭教育推進協議会(柴田勝会長)では、「新上地八景絵はがき」を発行しました。毎年調査をしてきましたが、私たちの学区の保護者の約半数は市外出身者で占められています。昨年は学区学校創立十周年の区切りとなり、豊かな自然を守り活気に満ちた「ふる里づくり」も第一段階に入っています。

新上地八景絵はがきの内容は、皆さんにもアンケートをとり、さらに学区の諸団体の長のご意見を加味した結果、
①奥山田池②ふる里上地像③夜泉上地坂④砂川⑤円光山寂靜寺⑥百丈山三善寺⑦大谷公園⑧憩いの緑道(絵+加納睦久先生)と決まりました。上地八景の位置は絵図の通りです。新しく上地小学校に転任して見えた先生方の感想を含めて、一年前のものと同絵柄のを除き順次紹介致します。
絵はがきは出身地への「ふる里通信」や「新上地八景巡り」のほか「教育装飾」にも活用できます。

①奥山田池
上地地区の区画整理以前は、灌漑用溜め池として大事な役割を果たしていましたが、今日では田畑も減少し、その使命はほぼ終わった感がします。



この池の水源は、自然雨水のほか生活雑排水の流入のため水の汚れが目立ち、水質浄化が叫ばれています。

池の北側は、アカマツ林と桜並木が続き満開の八重桜の美しさは見事です。南側は、ナラ、ブナ、クヌギなどの雑木林となっています。

昨年の秋の夕暮れには、千羽を越すサギの大群が飛来し、林が真っ白な花を咲かせたような風景も見られました。

冬ともなれば、水面は野鳥の天国です。カイツブリ、カルガモ、ハシビロガモなどが、のんびりと群れをなして遊んでいます。

また釣り人にとっても絶好の釣り場で大型のヘラブナやコイ、マブナの魚影が目立ちます。腕ほどの太さの超大型ウナギもいると言われています。

②ふる里上地像

上地小学校の校門東にたたずむ二体の像と一面のレリーフは子供たちの登下校や道行く人々を温かく見守っています。学区学校創立十周年記念事業の一環として平成四年度に築造され「ふる里上地」像と命名されました。発展目覚まし



① 奥山田池

い学区の新しい「ふる里」づくりの息吹きを感じさせます。

岡崎の石彫刻家鈴木政夫氏の作で、その温もりに、ふと足を止めて魅入る姿がよく見られます。

像の周囲には、サザンカや四季折々の草花が植えられ、落ち着いた雰囲気をかもしだしています。

像は、親子の絆や学区民相互のふれあいの大切さを静かに語りかけているようでもあります。

★上地八景巡りをして

尾張で育った私にとって、上地はまったく知らない土地です。この上地八景は上地の最初のイメージになると思います。
(太田千恵)

上地の歴史が少しわかったような気がします。新しい町の中に緑も多く、過ごしやすい環境だと感じました。すばらしい環境の中で子供たちとふれ合っていきたいです。
(岩井政美)



② ふるさと上地像

紹介します 『新上地八景絵はがき』 その2

上地だより四月号に一部を紹介しました。立ち寄っていただけでしょうか。

③ 夜景上地坂

夕日が西の空に沈むと、二四八号線沿いの情景が静かに変化していきます。

道路沿いの商店ネオンや街路灯の明かりが、輝き始めます。南北に行き交う自動車のライトが、長い帯の列を作り出しています。この二四八号線の関連工事が契機となって上地地区の区画整理事業が行われました。

蒲郡と岐阜をつなぐ本線は、「ニイヨンバア」と愛称され、産業道路として重要な役割も果たしています。

中央分離帯にはカンツバキが、歩道と車道の境界にはツツジ、プラタナス、ケヤキ等の街路樹が立ち並んでいます。開花時にはその彩りを楽しませてくれます。



③ 夜景上地坂

⑦ 大谷公園

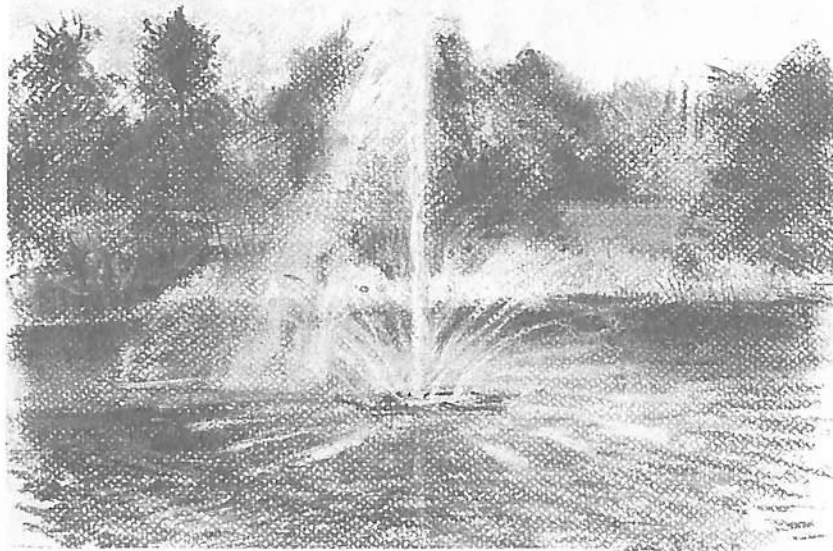
区画整理事業で多くの山林や田畑が失われました。しかし、標高六十メートルの大谷の山は、ほぼそのままの姿で残されました。

池には、カルガモなど野鳥が群れをなして飛来し、格好の遊び場となっています。池の中央には、「平成の泉」と呼ばれる噴水が吹き上がっています。二つの池の間には全長百二十メートルの大谷橋がかかっています。園内には、遊園地やキャンプ場が整備され、夏の訪れとともに子供会等の炊飯活動も実施されています。また、山中には平安時代の登り巻跡も確認されています。そして総延長一キロメートルの遊歩道が整備され、高さ十一、五メートルの銅鑼型展望台も建設されています。

⑧ 憩いの緑道

この緑道は、岡崎勤労福祉会館の東にあります。岡崎市政七十周年記念事業として整備され、「矢崎いこいの広場」とも呼ばれています。

広場は、幅十一メートル、延長百五メートルとかなりの



⑦ 大谷公園

規模となっています。石畳と花壇の一角には、出力二十ワットのソーラーライトが設置され、夜間の緑道を浮かび上がらせています。

石畳では、ローラースケートも楽しめ、勤労福祉会館のテニスコートと合わせて、絶好の野外遊園地の役割も果たしています。ベンチの周囲には、サツキ、ツツジ、キョウチクトウ等が整然と植えられています。東隣りは、緑丘学区「馬頭緑道」入口となっています。

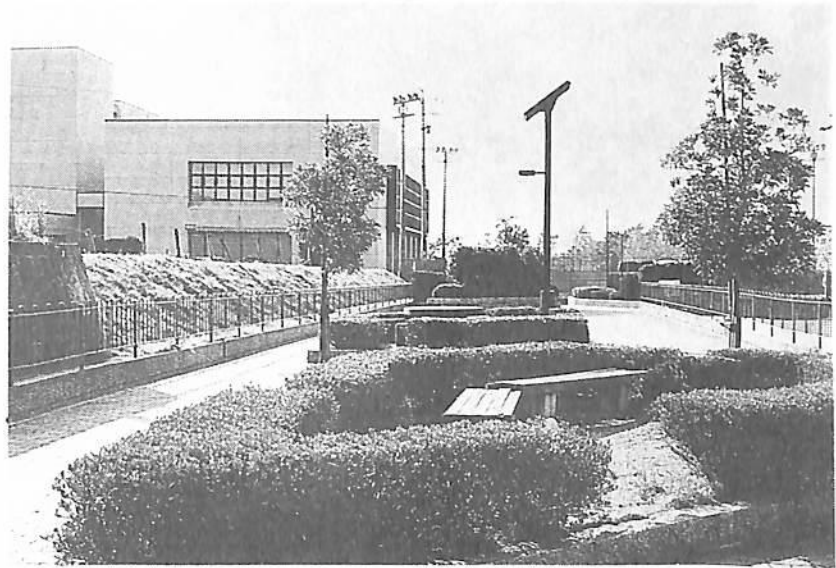
★上地八景巡りをして

新しい住宅街の中にひっそりとたたずむ寂静寺や三善寺に心の休まる思いがしました。大谷公園は昔のうっそうとした雑木林が明るく近代的な公園になっていて驚きました。

(松井敏子)

町並みには、自然発生的にできたものと、意図を持って作られたものと二通りであろう。上地の地は、まさに後者でありながら、自然にあらがうことなく、その特長や美しさを人間の意図と共存させようとしているところに先達の苦労や相違を見る思いがした。

(鈴木千恵子)



⑧ 憩いの緑道

上地戦没者「慰霊之碑」建立される

(上地八幡宮境内で除幕式挙行)

1、上地で七十一柱の戦没者

松原 眺三

第二次世界大戦が終わって、早くも半世紀が過ぎようとしています。世界屈指の経済大国にまで発展した今日、ともすれば、これらの繁栄が多くの方々の犠牲の上にもたらされていることを忘れていてはいけません。大戦に従軍し、無事帰国された有志の方々の間から「自分たちの存命中に何とか戦死された方たちの慰霊碑を建立したい」と話し合いが始まったのは、昨年十月のことでした。上地一区在住の畔柳市太郎さんを初め二十三名の方々の協議は、一年を経ずして、上地八幡宮境内に慰霊碑建立を実現させることになりました。短期間にも拘らず七十一柱のご遺族・八十五名の従軍者(家族)のご意志は、大きく結集されていきました。

去る六月二十日(日)午前十時、百余名の関係者が参列し、厳肅な雰囲気の中で「慰霊之碑除幕式」が行われました。中根鎮夫岡崎市長、市川正岡崎市遺族会連合会長、青山秋男愛知県議員など公職者の来賓に混じって、深津武司上地小学校長や矢野達雄竜南中学校長も来賓として出席されました。

以下、除幕式当日の様相や関係資料をご紹介します。皆様とともに、七十一柱の戦没者の失われた青春に深甚な哀悼の意を捧げたいと思います。

2、「慰霊之碑」全文紹介

碑文

大東亜戦争終結してここに四十八年、焼土と化した祖国の復興既になり、戦火を交えし国々との国交は回復、世界はすべて自由を得て共存の道を進みつつある。

現今の平和日本、高度成長、長寿社会があるのは祖国の安泰を願う家郷に思いを馳せつつ、日本軍人の一員として酷寒の北地に、あるいは炎熱焼くが如き南方の陸に、海に、空に身を挺して戦場に散華、あるいは傷病に倒れた幾多の戦友の加護によるものと信ずる。

我等生存従軍者、遺族一同は相集い相計りて、日清・日露の戦役より大東亜戦争終結に至る数次の戦役における、亡き戦友の御霊よ永久に安らかれと願ひ故郷の地、上地八幡宮の境内に世界平和、留魂慰霊の碑を建立した。

平成五年六月吉日

上地 従軍者・遺族一同
佐藤益荒 撰書



健勲社隣に建立された「慰霊之碑」

3、建立立委員長畔柳市太郎氏の挨拶要旨

大東亜戦争が終わって、かれこれ五十年の時が過ぎようとしております。残酷で悲惨な出来事がまるで走馬灯のごとく次から次へと想い出されます。大正時代を中心にその前後に生まれた者が体験した想い出、それは赤紙一枚が手元へ届けられた時から私一身はもとより一家を顧みることも許されず私たちが育んだこの地、上地八幡宮のご神前で武運長久を祈願して、町民の皆様は御国のために力の限り働いて参りますとお約束して従軍し、陸海空の軍人として尽忠報国の念に燃え勇戦奮闘いたしました。

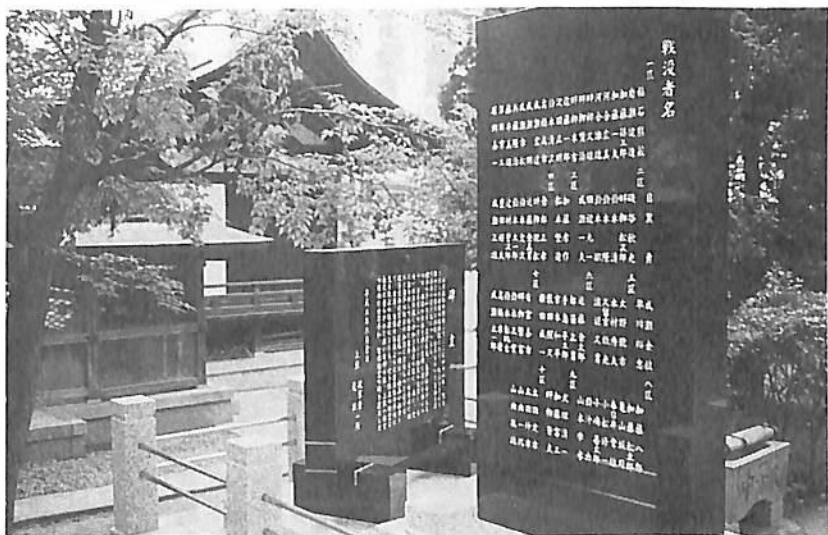
然るに、惜しんでも尚余りある七十余柱の竹馬の友は、今まさに開かんとする青春の人生を陸海空に散華し、故郷へ帰ること無く尊い護国の神となられた英霊に対し、衷心より尊崇と感謝の誠を捧げ永遠に安らかに鎮まり給えと祈念するものであります。本日ここに参列できます私たちは、終戦から五十年、物資も食料も不足の一途をたどり国民は塗炭の苦しみを味わい、生き延びることで一生懸命でしたが、「喉元過ぎれば熱さ忘れる」のごとく、いつの間にか当時のことを忘れがちとなって参りました。

誰から言い出すとでも無く、戦没者の石碑を建立しようではないか、貴重な体験も記憶も日増しに薄らぎ次第に消えてしまうからの声もあって、有志の方々にお集まり戴きお話し上げました処、賛成者大多数にて、早速準備に取り掛かり本日ここに除幕式を挙行することが出来ました。慰霊碑作成に当たられた大野石材さんも我がこととして最善のお仕事をして下さいました。関係の皆様は厚くお礼申し上げます。

祖国の繁栄を願ひ、志半ばにてその結果を見ずに散華された英霊に対し、感謝の誠を捧げ祖国の限りない繁栄と世界の永遠の平和を祈念するものであります。



上地八幡宮境内に建立された慰靈之碑



慰靈之碑裏側に記された上地地区戦没者名

4、地区遺族△云長佐藤益荒氏のお礼の一言葉(建立記念誌より)

昭和二十年八月十五日まさに有史以来はじめて敗戦、占領という悲運に際会いたしましたから四十八年が過ぎ去らんとしております。仏教でいうならば大部分の戦没者は今年か来年はもう五十回忌という大きな節目の年を迎えました。

時は流れ、激動の昭和から平成へと移り変わりました。今日のわが国は国際的にも希有の発展を遂げ恒久平和の誓いのもと世界第二位の経済大国として着実な繁栄を続け、豊かな生活を楽しむことができるようになりました。この繁栄と平和は自らを犠牲にして祖国のために戦い、筆舌に尽くしがたい苦難を乗り越え尊い犠牲となられた多くの御英霊のあることを忘れてはなりません。

しかしながら戦後に生まれた世代が全人口の過半数を越えたのを境にして、今や戦争体験を全く知らない人は四人に三人を占めるに至っており、戦争を体験した人々も高齢期になり、すでに亡くなられた方もたくさんおられる時代になりました。

このたび、南海の果て、或は絶海の孤島に、また大陸の荒野にと、陸海空に祖国日本国の安泰をひたすらに願い一身一家を国に捧げた多くの戦友、或は不幸にも戦災のために死没された方々の慰靈碑を町内生存従軍者の皆様の発起により、近隣にない立派な石碑を建立していただき感謝感激でいっぱいであります。

お礼申し上げます。

遺族一同子々孫々に本日の感激感謝を語り継いでゆきますことを誓い謝辞といたします。

5、従軍者代表加藤利吉氏の挨拶（建立記念誌より）

早いものであります。大東亜戦争終結してより満四十八年になろうとしています。私たち現役従軍者も六十八才以上の高齢者となり、年々同志も一人一人と減少しつつあります。

このたび、私たち生存従軍者、戦没者遺族の方々相集い相計りて、二度と悲惨な戦争を繰り返すことのないよう日本国憲法を遵守し、永久平和の願いをこめて建立をいたしました。場所も健甌社の東側でもあり願ってもない場所にて建てる事ができました。

今後この碑の完成を契機に多くの皆様方と亡き戦友の御霊よ永久に安らかれと祈る次第であります。建立にあたりご協力下さいましたご遺族、従軍者の方々に厚くお礼申し上げまして挨拶といたします。

6、遺族代表畔柳鈴代様の挨拶（建立記念誌より）

このたび、八幡宮の境内に、日清日露の戦争から大東亜戦争に至るまでの戦役において戦没した私たちの夫、親子、兄弟など肉親のために、このように立派で大きな慰霊碑を従軍者の皆さん、遺族の皆さんが浄財を出し合って建立、その除幕式に私達をお招きいただき本当に有り難うございました。

この建立にご賛同いただきました従軍者の皆さん、遺族の皆さん並びに日夜ご苦労されました役員の皆様にご心から厚く御礼申し上げます。私達遺族は、この慰霊碑を亡き肉親と思いつく守り伝えてゆきます。

今日は本当に有り難うございました。

7、戦況及び者々口簿（慰霊之碑より七十一柱一敬称を略させて頂きました）

上地一区		上地二区		上地三区		上地四区		上地五区		上地六区		上地七区		上地八区		上地九区		上地十区			
稲石 熊蔵	兵藤 隆治	岩瀬 健造	藤井 美雄	音部 正孝	近藤幸太郎	加藤孫三郎	深田 育三	畔柳 親松	郡築 正男	春日井常雄	加藤 一夫	堀淵 嘉一	近藤登美男	手島平三郎	小松 修一	河合 広美	目黒 勇	鈴木 文次	宮本 和平	小嶋善太郎	
河合 浪雄	上地二区	磯谷 秋光	辻村智次郎	横田 成一	鈴木 照久	畔柳 久雄	磯谷 秋光	辻村智次郎	横田 成一	鈴木 照久	河合 浪雄	上地二区	磯谷 秋光	辻村智次郎	横田 成一	畔柳 久雄	磯谷 秋光	辻村智次郎	横田 成一	鈴木 照久	
畔柳 賢治	畔柳松次郎	豊田 好夫	上地七区	上地九区	山本 季孝	畔柳 末吉	鈴木 清	成瀬 正雄	有富 嘉市	犬塚 清一	佐藤 一郎	鈴木 隆	成瀬 金枝	畔柳 繁富	加藤 富三	澤田 正明	鈴木 徹	早川 裕忠	鈴木 正實	畔柳 芳夫	
鈴木 清次	田辺 元一	上地五区	鈴木 彰比古	上地十区		高橋 高市	成瀬 一夫	大野 鏡市	高橋 卓磨	太田 定市	成瀬 宏遠	上地三区	木村 秀夫	成瀬 太郎	太田 仲市	成瀬 明	加藤 彦作	久留宮鉄光	上地八区	山内 一代	
成瀬 市松	船木 堅造	渡辺 久男	加藤 八郎	山内 政雄		成瀬 市松	船木 堅造	渡辺 久男	加藤 八郎	山内 政雄											

8、「決して忘れられない戦没者の遺志」

―柴田賢治建立立委員さん―

慰霊之碑除幕式当日、受付をしてみえた上地十区総代の柴田賢治さんも従軍者の一人です。多くの戦友を失った柴田さんは、五十余年前の記憶をたどりながら話されました。

「銃弾が飛びかう中で、多くの戦友を目の前で失いました。ついさっきまで、冗談を言っていた友が、血を吹き倒れ息絶えていきました。はっと、気づいた時、ああ俺はまだ生きていた。そんな毎日でした。幸運にも、私は生きて帰国し今を過ごしています。戦友たちのおかげで生かされているのです。母を呼び、父を思い、兄弟を語り、ふるさとへの限らない郷愁を断ち切れないまま戦地で果てて逝った戦友の遺志は決して忘れられません。」

柴田さんの話に深くうなづきながら、深津武司校長先生も静かに語られます。

「私は、幸か不幸か、直接戦争体験はありません。しかし、これからの日本は、私のような者が益々増えていくわけですから、慰霊之碑建立の意義を深く理解しなければならぬと痛感しています。今日の平和や繁栄が、慰霊之碑に祭られた方々の若い青春の命によってもたらされたことを忘れてはならないと思います。」

お二人の会話をお聞きしながら、岡崎が空襲を受けた昭和二十年七月十九日の夜を思い出しました。B二十九爆撃機の大編隊による焼夷弾の嵐が吹き荒れたあの日のことです。塵墟となった母校の後片づけに汗を流した当時を思い出します。一面焼け野原と化した廣生町付近の惨状を思い出します。

過ちを再びくり返さないために、慰霊之碑建立の意義をかみしめながら、私も決して忘れてはならない……。

環境美化と自然保持

上地小 菅沼剛

一、砂川の水質検査

去年の夏、上地小の科学部の子が、青年会議所の指導により、砂川の水質調べを行いました。これは、川に住んでいる生物を調査し、その種類によって川の汚れ具合を調べようとする方法です。指標となる生物を印刷したカードを参考にしながら調査をしました。

その結果を科学部顧問の土屋先生に聞いてみました。

調査は、学校前からJR下まで行いました。確認された指標生物は、カゲロウの仲間、ミズムシ、セスジユスリカ、イトミミズという結果でした。カゲロウの仲間を除いて他はすべて汚れた川に住む生物ばかりでした。水質階級Ⅰ（きれいな水）、水質階級Ⅱ（少し汚れた水）、水質階級Ⅲ（きたない水）、水質階級Ⅳ（大変きたない水）というように四つの段階に分けると、やはり水質階級Ⅳ（大変きたない水）という結果でした。予想はしていましたが、大変残念な結果でした。生活排水が、大量に流れ込む現状では、仕方ない結果ですね。……子供たちのためにも、きれいな川にしたいですね。



セスジユスリカ(幼虫)



ミズムシ

二、奥山田池の生活排水

さて、砂川の源である奥山田池のよこれが目立っています。勤労福祉会館側の排水口には、洗剤の泡が見られます。生活排水が流れ込んでいる証拠です。六月のある日、奥山田池に流れ込む水を調べるため、市役所の榎田さんをお願いして、案内して頂きました。榎田さんのお話によれば、普通の際は生活排水は直接には奥山田池に流れ込まないようになっているということです。

その構造を見学するために、勤労福祉会館の西側の排水口から、中へ入って行きました。この排水口は、二・五メートル四方もあります。榎田さんを先頭に、教頭先生と私が後に続きました。長靴を履き、懐中電灯を持ち、おそろおそろ入って行きました。入口から二十メートルほどの南側に小さな管がでていました。ちよろちよると流れ出ている水は、比較的きれいなものでした。管の回りには、赤茶けたさびのようなものがこびりついていました。鉄分を含んだ地下水がしみ出ているものと思われまます。以前は、このような地下水や上地の山から、きれいな水がこの奥山田池に注いでいたものと思われまます。



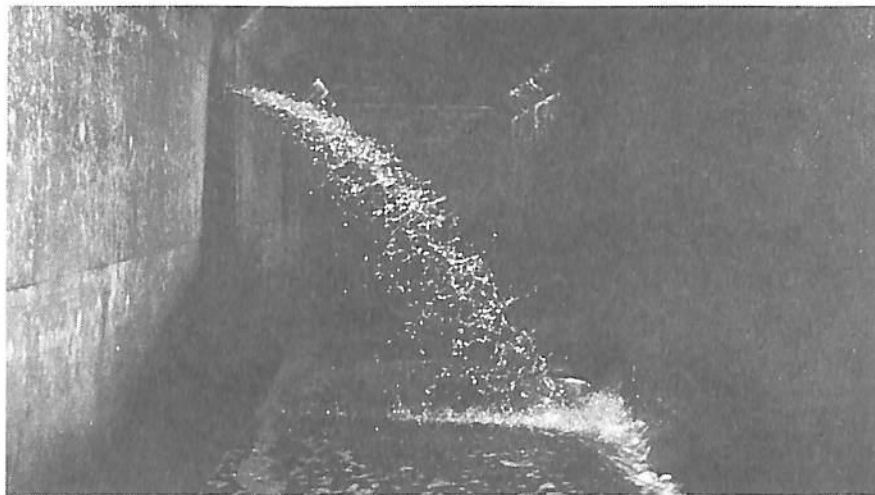
奥山田池に注ぐ排水溝の出口・洗剤の泡、ごみが池に入り込んでいる

二・五メートル四方の排水溝には、左右からいくつもの管がでています。それらの管からはほとんど水は流れ込んでいません。雨水以外は流れ込んでこないとのことでした。それでも、排水溝は、三センチほどの深さで水が流れていました。

この水は、どこから来るのかと更に奥へはいって行きました。入口から五、六十メートルほど入った左側（北側）からの、ものすごい勢いで水が入り込んでいました。水の勢いで左から右へ水のトンネルができています。雨も降っていないのにこれだけの量の水が、常に流れ込んでいるということがわかりました。洗剤の泡のようなものも見られ、明らかに生活排水と思われまます。距離的に考えると、勤労福祉会館のテニスコートの下あたりかと思われまます。

この地点を越えるとほとんど水はありません。更に奥へと進んで行きました。

矢崎いこいの広場の下まで行きました。ここには、排水溝を横断する形で、さらに溝が作ってありました。榎田さんのお話によるとこれより上の生活排水はここから、奥山田池を迂回して、砂川へ導かれているということでした。



排水溝へ勢いよく流れ込む生活排水

緑丘方面から来る生活排水が、ここから迂回して流れていく様子が良くわかりました。大雨などで、水量が多い時は、ここを直進して、直接に奥山田池へ流入するそうです。

二・五メートル四方の排水溝は、更に、緑道の下を通過して、宇野病院から緑丘方面へ続いています。

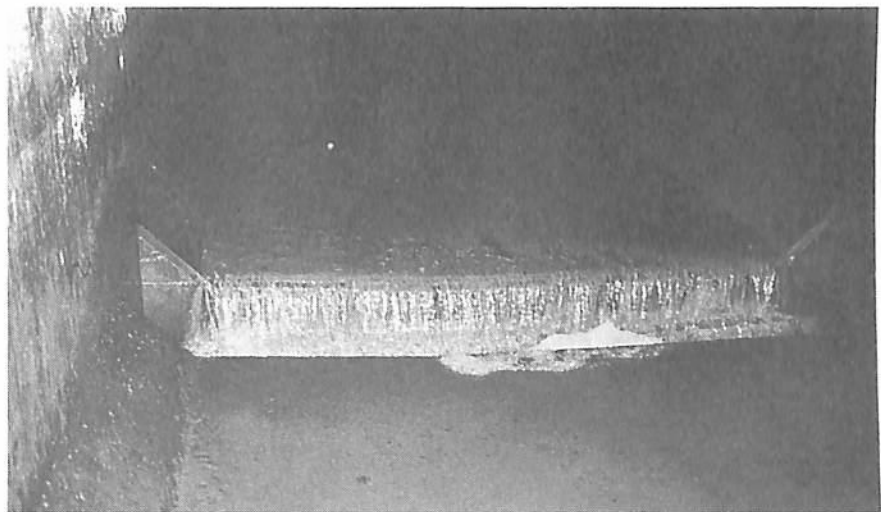
私たちは、矢崎いこいの広場の下まで行って、ここから引き返してきました。今度は外へ出て、生活排水が奥山田池へ流れ込まない仕組みのマンホールを見学しました。

奥山田池の南側の通学路にあるマンホールです。

通常時、生活排水は、奥山田池を迂回して流れる構造が良く観察できました。

さらに、奥山田池を迂回して、砂川へ流れ込む地点を観察しました。洗剤の泡を含んだ水が勢いよく砂川に流れ込んでいる様子が良くわかりました。

奥山田池や砂川への生活排水流入をゼロにすることは、現状では不可能だと思われます。大規模な下水道工事が行われなにかぎり無理だと思われまます。生活排水に対する意識や、地域の自然に対する優しい心づかいが大切かと思えます。



緑丘方面からの生活排水はここで迂回して砂川へ注ぐ

三、若松東町内会の取り組み

奥山田池を擁する若松東町内会は、今年の四月に奥山田池の清掃作業を行いました。町内の多くの方々が参加した地域ぐるみの活動は、新聞にも紹介され、大きな関心呼びました。また、六月には「奥山田池美化の学習会」を開催しました。この学習会は、岡崎市環境衛生部環境課、建設部土木維持課の担当者をお招きして行われました。

奥山田池の水質検査、スライド映写に続いて地域の方々との懇談を通して、身近な環境問題を考えるため絶好の機会となりました。このような活動を推進してみえる、若松東総代の柴田 勝さんから、環境問題についての原稿をいただきましたので紹介させて頂きます。

奥山田池の水をきれいにしたい

若松東総代 柴田 勝

若松、柱、上地の区画整理前のこの地域は南に面した丘陵地帯であり、その前面に広がる水田の灌漑用にたくさんの溜め池がありました。少し離れますが、クラタ産業の近くの長池、その下の羽根大池、東楽園の大池、明治池若松東の奥山田池、上地の大谷池、その他、区画整理でなくなった小さな池は、たくさんあります。

いずれも、山の出水を湛えた深淵たる池でした。それが区画整理によって水田への灌漑用の使命がほぼ終わり、洪水調整池としての役割を果たすことになったのです。

山からの出水も無くなり生活排水の溜め池となったのです。奥山田池も十六年前の町創立当時は、きれいな池でした。ここ数年急速に池の汚れ、悪臭がひどくなりゴミの溜り場となりました。

昔の自然が唯一残っている奥山田池、大谷池周辺の面影をいつまでも美しく保ちたい。再び、きれいな池を取り

戻したいと、地域住民は念じます。

三年ほど前の夏七月、上地小学校の子たちが砂川の清掃奉仕活動をした記事を読みました。

「悪臭の川、汚れた川、ゴミと危険物のたまった川砂川。」清掃奉仕活動をした子たちはみんな、砂川をきれいに魚の住める川にしたい、この川を遊べる川にしたいといっていました。胸を刺される思いでした。

わが町内でも前から奥山田池をきれいにしたいとする気運が高まっていました。

この四月、池の濁水期を狙って、町内の有志に呼びかけ奥山田池の清掃作業をしました。

予期もしない婦人部、子ども会の役員などの参加もあり、東公園のボートを借りての大作戦でした。

環境を良くしたい、きれいにしたい、住みよくしたい、誰しも思います。それは一人一人が実践することです。

この実践活動を契機に、奥山田池を定期的に清掃しよう、池の水をきれいにしようとする気運が一層高まりました。

その余熱が冷めやらぬ過日、奥山田池美化の学習会を開催し、環境課、土木維持課担当者のご指導により奥山田池の水質検査、スライドによる水質浄化の現状を知りました。懇談会では、この地域の下水道共用時期の問題、側溝補修のことまで話が及び大変有意義な学習会でした。

これからも環境改善の問題については、実践活動を通じて進めていきたいと思えます。

環境美化・自然保全の問題は、地域住民の方々の意識と、どんな小さなことでも、具体的な実践活動が大きな意味を持つことを再確認しました。

六十年前の「上地水車小屋」を追って

（水源は砂防溜池（奥山田池））

松原暁三

天候不順の春先。校長室で総代さんたちと、上地学区誕生前の頃を話し合っていた時です。

「ほや、この上地小学校の周辺も山ばかりだった。」

「そういやあ、あのサークルKの辺に水車も回っておった。」

「子供の頃だったなあ。」

「砂川で泳げたんだから、きれいな川だった。」

総代会長の成瀬司さん、八区に加藤正之総代さん、学校開放委員の加藤又之信さんら上地学区誕生前から住んでいる方たちの会話がはずみます。

以前、上地学区の長老、八区に加藤信太郎さん（故人）宅に伺った時にも、この「水車小屋」を耳にしました。それ以来、何となく気にかかっていた「水車小屋」が、この日の会話にも登場してきました。こんなことがきっかけになって、のどかな音を響かせながら時を刻んだ水車小屋を追ってみることにしました。すっかり都市化してしまった今日の上地に、「水車小屋」をダブらせてみるのも、楽しそうです。

1、サークルK上地店南東の山間にあつた
〜上地八区の加藤又治郎さんご夫妻を訪ねて〜

上地学区第十一回敬老会前々日の十三日(月)の午後、雨の中を長坂借一校務主任と一緒に、上地八区の加藤又治郎さん宅を訪ねました。ご存じの方が多くと思いますが、加藤又治郎さんは昨年度まで上地学区体育指導員をつとめて下さった又之信さんのお父さんです。

加藤プレス工業所の仕事の手を休め、広い和室に案内されました。敬老者名簿によれば、又治郎さんは八十三才奥様のふささんは八十二才ですが、いずれも健在です。又治郎さんは、息子さんの又之信さんの仕事を手伝い、プレス作業もしておられます。ふささんも、家事に精を出され、夫婦そろって元気な毎日を送っていらっしゃいます。

「今日は、上地の長老、又治郎さんに水車小屋のことをお聞きしたくてやって来ました。」
お忙しい時間を割いて頂いているので、訪問の用件を簡潔に切り出しました。

「そうかん、水車小屋あつたよ。うちの田んぼのすぐ近くだったで覚えておる。」

又治郎さんの言葉は、自信に満ちたはつきりしたものでした。隣に座ってみえるふささんも、ご主人の話に相づちをうちながら、笑顔を絶やしません。

「ところで、どのあたりにあつたのかねえ？」

一気に話題は核心に入っていました。こうした展開を予想してか、又之信さんが「愛知県岡崎市土地入團畫帳(岡崎支所作成)」を机の上に広げられました。昭和三十年代に作成されたものようで、貴重な畫帳です。

砂防溜池(奥山田池)の南側から山道沿いに水路が流れています。現在の国道二四八号線の地下をくぐって八区の集合農地

の方に向かっていくのでしょうか。

「砂川より一本南側だから、水車小屋はこの砂防溜(現在はありません)の左角のところにあつた。」

又治郎さんが、机上に広げられた「土地入團畫帳」を指差されました。ふささんも、「そうだそうだ。」と、うなずきます。

「そうすると、この土地入團畫帳六八番のところですね。」

念を押して尋ねると、又之信さんは、私たちが持ち込んだ「上地区画整理事業計画図」(加藤正之上地八区総代さん提供)と照合しながら、父親の又治郎さんののぞき込みました。

「ほや、間違いないなあ。今のサークルK南の地下道より北だから、ここだーほやここだー」

又治郎さんご夫妻と、息子さんの又之信さんが、顔を見合わせてにっこり笑いました。

「あの頃の砂川はきれいだった。泳いだもんな。」

「ほやほや、水路の北側のうちの田んぼへ行く時も、よう、キツネがクワツ、クワツ 鳴いてついて来た。」

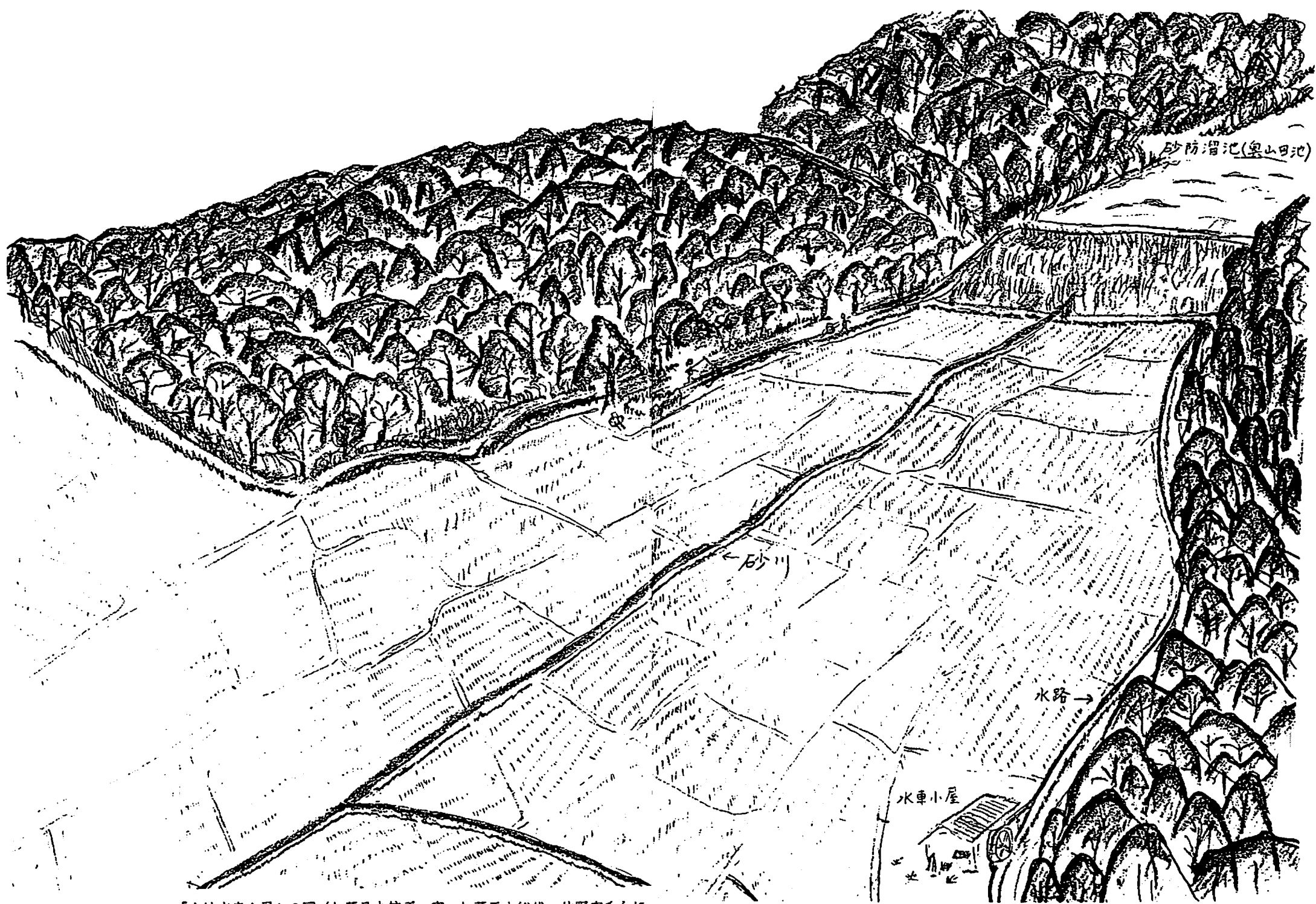
遠い昔の上地を思い浮かべながらの「ふるさと上地」談話が、親子の間で始まっています。

2、六十年前まではあつた水車小屋

「そうすると、いつごろまで水車小屋はあつたのでしょうか？」

上地の米をつき続けた水車小屋があつた時期をお聞きしました。

「私がここへ嫁に来てまあ六十年になるけど、まだそのころはあつただもん。六十年位前まではあつただよ。ねえ、おじいさん。」



「上地水車小屋」の図（加藤又之信ご一家・加藤正之総代・佐野実氏らに
 小屋周辺地形のご指導を受け、上地小学校教務主任の菅沼剛先生がスケッチ）

ふささんが、又治郎さんに語りかけました。

「そやそうだ。古いぞん。わしが子どもの頃からずっとあった。水車の初めの持ち主がサークルK店長さんの四代前の田中さん、その後を継いだのが畔柳重吉さん（上地三丁目四一―一七在住の畔柳留美男さんの父親）だから、とても古い。」

又治郎さんが、目を閉じ、懸命に過去をたどっていらっしやいます。

「わしの子どもの頃からずっとずっと前からあっただもん。まあ、百五十年前からあったことだなるよ。」

「当時の上地中の百姓が、みんな米を大八車で運んで来た。」

今度は、ふささんが言葉をはさみます。

「うちも大八車で持ってたよ、米を。確か、三俵は乗せてったと思う。」

「足踏みで米をつくのは大変だったもんな。」

「ほいで、米がつけると、畔柳重吉さんが大八車で配達してくれたもんだ。」

「夫婦の会話が六十年前の上地の田園風景を想像させて下さいます。」

3、水車小屋には白が八つあった

「大谷の村だけじゃなくて、上地中の百姓の米をつくだもん。白が水車小屋に六つあった。」

又治郎さんの話は、だんだん詳しくなっています。

「そうだ。その白が今、うちにある。」

こう笑いながら言われたのは、ふささんです。

「おやじたちの話だと、隣の家も、水車小屋をやめる時にうちと一緒に五円で買っただけな。」

又之信さんが、つけ加えて話されます。

まさに、これは加藤家の「家五」です。もっと言えば、上地の歴史を語る学区の宝でもあります。同行した長坂先生が、カメラに収めたのがこのシリーズで紹介する写真です。お宅の軒下に、しっかりと木のふたをして保管されています。

「その白で、米が二斗つけるだがん。」

「ほいで、水車小屋の六つの白で一回に三俵の米がつけたことになるねえ。」

「水車には、えらいお世話になっただよ。特に大谷の村は、電気がつくのがおそかったもんだねえ。」

じっと、目を細めてご両親の話を聞いていた又之信さんが言いました。

「わしがまだ学校に通う頃でも（氏は五十二才とお聞きしています）電気がきておらなくて、カンテラ掲げておっただもん。電気がついたのは、小学校三年生の頃だったと思ふよ。」

今度は、又治郎さんがご自身の体験を話して下さいました。

「そやそうだ。電信柱（でんしんばしら）も自分の山の松の木を切ってきて作っただもん。小畑（現在の上地六区）の方から大谷まで、電信柱を立ててきてやっと電気がついただもん。それまでは、息子の言うように石油ランプだったもん。」

「田んぼ仕事から帰ってきて、暗がりの中でランプの火をつけただもんね。このへんなんかは、ジャングルみたいだったもん

ねえ。」

ふささんのお話にも力がこもります。

4、天井ぐらゐの高さだった水車

「今のように、機械でつくじやないから、持って行った米は明るる日にならんと配達されんかった。」
「動きがおそくて、ことん、ことんだったもんね。」

「夫婦の話は、やがて当時の水車小屋の大きさに発展していきました。」

「どうだん、おじいさん。どれぐらゐだったねえ、水車小屋の大きさ。」

「ほうだなあ、何にも残っておらんので、はっきりとは言えんが、この天井ぐらゐまでの高さだったじやないかのう。」

「ほうだね。おじいさんより、背が高かったでねえ。」

「どえらい大きなものじやなかったな。幅が、そうだなあ、尺五寸（五十センチ）ぐらゐかな。」

「ほだほだ。」

「なあ、ほいで、水路の水が上から水車に落ちると、ころっ、ころっと回ってな。杵が持ち上がって、はずれて、臼の中の米をついただよな。」

六十年前の記憶が、よみがえり、お二人の会話が一層細かく鮮明なものになっていきます。

5、水路の水で米をといだ

「ところで、水車小屋の番人はどなたがしてみえたんですか。」

と、小屋の管理についてお聞きしてみました。

「それは、畔柳重吉さんの嫁さんだったはずだよ。」

「腰が曲がっておつたで、六十過ぎとつたじやないかなあ。」

「あ。」

「米をついておる時は、一晩中そこで寝泊まりしておつただよ。」

「あの頃は、今のように悪い奴はおらななで、おばあさんが夜中一人でもよかつたじやないのかなあ。」

「朝になって、わしらが田んぼ仕事に出かけると、水路の水で朝飯の米をといでおいでたもんだ。」

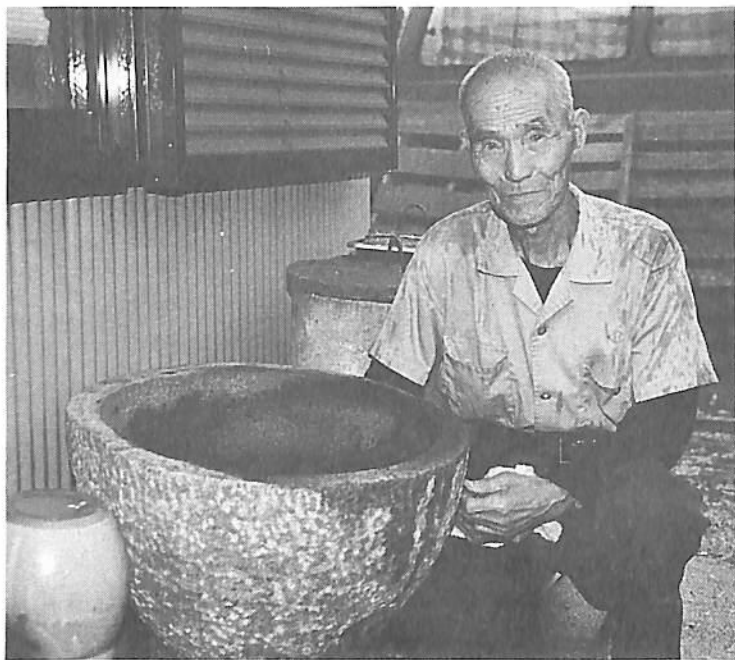
又治郎さんの話しが続きます。

「ほやね、あの頃の水はきれいだったもんね、おじいさん。奥山田の池の水は山水だったもんね。ほや、きれいだったよな。」

ふささんが、おじいさんに語りかけます。

大谷の山の清水が、うるおした当時の田んぼ。きつと、おいしい米だったに違いありません。

「シジミがおつたし、フナもコイもナマズもウナギ、ハエ、ドジョウ、モロコ、ひげをはやした大きなナマズ。まあ何でもおつた。」



水車小屋で使われていた米つき用石うす（加藤又治郎さん宅）

又治郎さんの話が、砂川の魚に移ると、息子さんの表情が一層輝いてきました。おそらくは、子どもの頃のご自身、大谷のガキ大将時代を思い起こしておられるのではと、勝手な想像が横切ります。

幅が「二尺ぐらい」だった水車小屋への水路にも、こうした魚が泳いでいたとのこと。

「高い方から流れ出ていたので、サラサラ音がしておった。その勢いで水車が回ったんだからもう。」

又治郎さんとゆきさん、加えて息子の又之信さんが語り続ける「上地水車小屋物語」は、尽きません。

「ほや、うちのおっかあが、こんな田舎じゃあと、びっくりしたぐらいだのう。」

お茶とお茶菓子運んで来て下さった奥さんが、プレス工場に戻った頃、又之信さんがポツリと言いました。上地六十年の歴史が、話のはずむ和室でよみがえりました。

6、ほのぼのと温かな加藤一家に感激

まだまだ、「上地水車小屋物語」は続きます。

敬老の日を前にした雨降りの午後とは言え、一家益々ご健在。鉄工所の仕事の手を無理に休めて頂いたひとときです。長居はご迷惑と、長坂信一校務主任とお茶を頂く事にしました。

奥さんが、お茶を出して下さった時には、長坂信一先生がいまませんでした。ですから、ご夫婦と息子さんと私の分でお茶とお菓子は四つ。

長坂先生と私の二人がお茶を口にしました。私が、

「息子さんは煙草吸っておるで、おじいさんとおばあさんどうぞ。」

と、お菓子とお茶をお二人の前に置きました。すると又治郎さんが、そっと、隣の息子さんにささやきました。

「俺はいいで、お前飲め。」

と、又之信さんの前に移されました。と、今度は、おばあさんです。

「おじいさん食べやいいがん。わたしはいいで。」

いつの間にか、おばあさんの前からお茶もお菓子もなくなっています。

「わしらは幸せだがん。いい息子夫婦だで。」

帰りしな、ふともらされた又治郎ご夫妻の言葉が、たまたまなく優しく耳に残っています。

「ゆるさと上地」の心を見る思いでした。



上地水車小屋を語る加藤又治郎ご夫妻と又之信さん

実録「大谷池の大蛇」物語

～伝説の謎と神秘の世界を追って～

松原暁三

今は故人となられた上地八区に加藤信太郎さんが「大谷池には大蛇がおった」と、生前に話されたことを思い出します。

もともとおっちょこちょいのてんぐは、さーと空を一とび、大谷の池へまいりました。

「おお、うわさどおりだ。こんな池のまん中で金色の玉が二つも光って……なんてめずらしいこともあるもんだ。」

そこで、もっていたついで、ちょいとついでにみました。

すると、水がガバーともりあがり、

「何をするだ。」

と、かおを出したのは何と、りゅうでした。

ご存じでしょうか。これは、上地小学校前校長の嶋田稔先生の童話「りゅうとてんぐの力くらべ」の一節です。生前の信太郎さんからお話のあった「大谷の一本杉」にいた天狗と大谷池の龍を登場させた話題の創作童話です。

いつか、もっと詳しく大谷池の大蛇を調べてみたいと思いますが、思い出話の主であった信太郎さんが亡くなられてしまい、あきらめかけていました。

そんな矢先に、上地区画整理組合の第一組合の副理事長だった畔柳市太郎さんが学校にいらっしゃた折に、「それなら、私も多少の思い出がありますし、実際に体験した人も残っていますから、皆様の記憶をたどって調べてみましょう。」

と、資料の提供を約束して下さいました。昔から「大蛇」が「龍」になったりするのには、よくあることです。大きな期待を寄せて、お待ちする日々が続きました。畔柳市太郎さんが、大きな茶封筒に入った書き物を届けて下さったのは、それから一か月ぐらい過ぎてからでした。

題して「大谷池の黒竜さん記録」です。

開けてびっくり。表紙の裏には、市太郎さんご自身による大谷池周辺の手書きの地図が添えられています。

そこには、「上の池」「下の池」「卵と皮のあった所」「皮の家」「御神体の社」「蛇形の石」等、つきない興味と関心をかきたてる言葉があふれています。

以下、こうした諸資料をもとに、「大谷池の大蛇」に迫ってみたいと思います。

一、「大谷池堤防で松の木ぐらゐの大蛇を見た」

十月二十六日(火)の朝七時半、いつものように上地八区方面に子どもたちの登校巡視に出かけました。加藤プレス工業の前を通ると、ちょうど工場主の又之信さんのお父さん(又治郎さん)が仕事を始めるところでした。又治郎さんには先号の「上地水車小屋」の取材でお世話になったばかりです。

畔柳市太郎さんの記録で、大谷池「大蛇の皮」発見者の一人とお聞きしていたので、ずばり核心にふれてお尋ねしました。

「又治郎さんは、大谷池の大蛇の皮を発見したお一人だそうですね。」

いきなり、へびの話が飛び出していったためか、一瞬げんな表情をされましたが、すぐに張りのある返事がはねかえってきました。

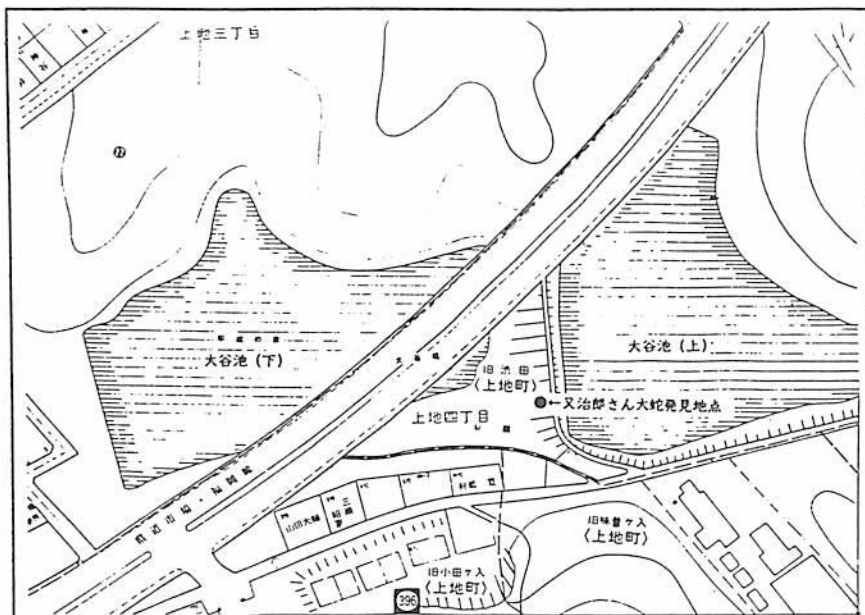
「皮だけじゃない。忘れもしない。あの朝は。」

当時(今から四十年前)、又治郎さんは大谷池を水源とする「大谷坂貯水池」の配水長でした。毎朝、大谷池の用水栓を抜きに行くのが仕事になっていました。

さて、又治郎さんが興奮して語り始めた衝撃的な記憶の紹介に移りましょう。

あれは、医療刑務所がまだ上地に移ってくる前(昭和三十七年移転)のことだったから、四十年前のことだった。いつものように朝の六時頃、大谷池の上の池の用水栓を抜きに堤防に入って行った。

そうすると、目の前に松の木のような物が倒れておった。誰が、こんな所に松の木をころがしておいたのかと、



加藤又治郎さんが大谷池で大蛇を発見した地点



大谷池の用水栓と水漏れ箇所修理作業(加藤又治郎さん提供)

一、大谷池堤防で大蛇の卵と皮を発見

さて、これから、畔柳市太郎さんの記録紹介に移ることにします。

又治郎さんの大蛇発見談は、かなり大きなショックでしたが、実は他にもそうした体験をした方がいました。「大蛇が這っていった所の稲がずーっと倒れておったそうだ。」

これは、故人となられた信太郎さんが「大谷池の龍」を語られた折に耳にしたことでした。ところが、市太郎さんの記録では、こんな情景が記されています。

故田中内太郎（上地町字上明寺）さんによれば、善十林（今は上地五区）で夜バタンバタンと大きな音が近づいてきたので、見たら大蛇が兎を追っていた。

故本多広吉（上地四区）さんによれば、田の草取りをしていて蒸し暑くなってきたので、大谷池で水浴びをしたら、大蛇が目の前において驚いた。

市太郎さんの記録紹介を続けましょう。

昭和三十年の夏の頃です。当時、配水長だった畔柳市太郎さんと加藤又治郎さんら十六名の目撃談です。

大谷池の上の池で水漏れがあったのでみんなで堤防を掘り下げていったら、水は流れていなかったけれど十五センチぐらいの穴があった。それを更に掘り下げていったら、三メートルぐらい掘った所にヘビの卵の殻が五、六十

大谷池

黒竜さん記録

昭和三十年に巨匠、整理して
池の周辺の造成が始まったので
黒竜さんは村の池の所へ行って祭りに
取除きのやぶを刈り、12月下旬に除け
所を山の田中小一郎官司に依頼、お祭りの
畔柳又治郎さんと所社の焼香、
所神体と大蛇の皮を上地の所へ搬上
り、軒先に、現在も所蔵している。半
正の石段をとって、まいる便りにお祭りの
①田中小一郎官司のお願い
今年の夏の大祭りに、清水の所へお祭りに来て
お祭りの中へ

畔柳市太郎さんの「大谷池黒竜さん記録」の一節



「大谷池の黒竜さん記録」を手にする畔柳市太郎さん

個あったのを見つけた。そのそばに、皮がつくなくて(重なって)いたので、取り出して開いてみたら、手の平を広げたぐらいあったのでびっくりした。伸ばしてみたら、約三メートルぐらいあった。あまり臭かったので、木の枝に干しておいた。後になって見たら、皮はなくなっていた。

すでに、この頃、大谷池の(下の池)山中に、通称「黒竜さん」(へじ神さん)の御社がどなたかの手で建立されていたのです。それ以後、昭和五十年の夏、信心深い野沢信義(故人)さんの依頼を受けて、畔柳元治(上地二丁目十九番地)さんによって更に立派な御社に建て替えられました。指し物師の畔柳さんによる寄進でした。

野沢さんは、生前、上地町字北藤六で牛乳販売店を経営してみえたとのことでした。野沢さんの娘さんであるキミ江さんによれば、信義さんは、毎晩のように御社拝りをされる信心ぶりでした。年に三回、春夏秋冬には大祭を開き大晦日には元日の朝までタイムツを焚いてお祭りしたということです。

野沢さんが、御社を新しく建立し直した契機がまた興味深いのです。それは、上地町字清水の河合悦次さんが見た夢に原因していたのです。ここで再び、市太郎さんの記録に戻ります。

昭和五十年の夏の大祭の晩です。悦次さんが夢を見ました。野沢さんが毎日、黒竜さんに御神酒を奉納されていたのですが、瓶の蓋が取ってないので飲むことができないで困っている、大蛇が言ったということです。それから、瓶の蓋を取るようにしました。御社の改築や大祭費用を捻出するために、河合さんが資金集めの奔走を始めたということなのです。

それ以後も、夏の大祭では、不思議な現象が続きました。上地町上明寺の御嶽神社の田中官司さんによれば、花火を十発奉納したのですが、朝、五発打ち上げたら、五発とも下の池に落ちてしまい、池の中で爆ぜて高く水柱が上がりました。花火屋さんによると、そんな水柱が上がるというはずはないということで不思議でならなかった。また、畔柳元治さんによると、夏祭りの式典の時に、大谷池の下の池の中央で大蛇が泳いでいるのを参拝にきた人たちが見て、あれあれと言って大騒ぎになってしまった。

二二、ご神体と大蛇の皮は上地の御嶽神社に移転

大谷池の下の池山中に手厚く祭られていた御社(黒竜さん)も、上地地区の区画整理事業による大谷公園整備のため移転のやむなきに至る時がきました。

昭和五十九年の十二月下旬のことでした。御嶽神社の田中一小郎官司さんによるお別れの祭りの後、畔柳元治さんの手で御社は焼却されました。石で作られた二体のご神体と大蛇の皮は上地町上明寺の御嶽神社に移されました。

この地に移転される前から、「黒竜さん」へのお参りを欠かすことのなかった方に鈴木ヤスさんがいます。加藤又治郎さん宅をお訪ねした同じ日の午前十時でした。御嶽神社の田中官司さん宅を訪問した折に、奥様のご紹介で鈴木ヤスさんにお会いすることができました。

ヤスさんは、上地町上明寺二十八番地にお住居です。突然の訪問にも拘らず、快く応対して下さいました。ヤスさんが話して下さいた「夢物語」がまた、胸を打ちます。

上地八景を歩く会に参加して

（上地学区区社教委員会△△△主催行事）

夜来の風も、今日はうって変わっての快晴。そして、小春日和。

学区の有志が七十余名。松原教頭先生の先導で校門を出る。つい目の先に広がる奥山田池。

昨夜の風が運んで来たのか、木の葉がただよう池面に無心に浮かぶ数羽の鳥。

「あれが、かるがも。あそこに見えるのが川鷓……。時には鷺も来ます。」

と、野鳥の会の斎藤かをるさん。

野鳥の説明を受けると、何か池も鳥も、日頃見なれた光景と趣が異なり、こんな身近なところに、こんな自然がと、ひとりうなづく。

勤労福祉会館の看板の下あたりに、三十年程昔、温泉が出たが湧出量が少なく、夢はうたかたの如く消えたとか。

また、市議の渡辺先生からは、この会館の生い立ちの苦勞話を聞く。

次は、矢崎憩いの緑道。折角の施設も市民から忘れられているのかと思われる閑静さ。

馬頭（ばとう）の地名の由来はどの声に、教頭先生から、この辺りは馬と名のつく所がいくつもあり、今調べているところとの説明。

地名の歴史と文化財が、発表される日が待たれる。坂を上り、梅林の下に、静かに眠る上矢崎古窯（こよう）を見る。

ついで、堤ヶ入古窯を大谷の山の上に訪ねた。荒井信貴岡崎市学芸員から、発掘された土器を見せて頂きながら説明を受ける。ここでは、灰釉を使った高度の物が焼かれていたという。



大谷橋を背に記念撮影の参加者



堤ヶ入古窯の説明をする荒井学芸員

また、その辺りに、窯跡の土器がある筈だとの言葉に足許を見ると、焼けた土くれがごろがっている。拾って見ると、陶工のものと思われる二本の指あとが、はっきり残っていて、指を当てると、何か細い感じがする。

この指で焼かれた高坏か皿が都にのぼり、大官人の宴に供されたかもしれない。あるいは、生産・輸送能力からこの近くには、相当大規模な集落があったのではないだろうか、一千年前を追いつつ、平成の泉、大谷池に向かう。

池の片隅に、畔柳五郎工門翁碑が建っている。百年もの昔、この大谷池の貯水池工事を進めた人だが、誤解もあって、なかなか顕彰されなかったとか。

なる程、碑文の末尾には「君が心の程も知らねで……」と刻まれている。今、とれだけの人が、翁の心の程を理解しているだろうか。

上地配水場。どちらを向いても、秋を彩る木々に囲まれた全くの別天地。ここは私達の生命の源でもあるッ水ッを一日一万トン、夏のピーク時には、二万トンも供給している施設だと聞いて、改めてコンクリートの水槽を見直す。

全員、和気あいあいのうち、事故者もなく時間も予定通り終る。今日は、上地八景のうちの半分を見た。私の万歩計は、校門を出てからここまでで、三八二〇歩。

この短い距離の中に、自然が、緑が、平安の夢が、そして先人の遺徳が光る池がある。

歩きながらの楽しい語らいの中から生まれた人間関係などと思まれた環境を改めて見直した。

また、折々の説明も楽しく、次回が待ち遠しい。

参考資料

松原 暁三

1、堤ヶ入古窯(大谷公園山中の案内板より全文紹介)

〔平成五年十一月、岡崎市公園緑地課が設置〕

愛知県は古くから窯業産地として知られており、岡崎市南部から幸田町に広がる丘陵地の斜面にも、古代から中世の窯跡が点在しています。

この大谷池周辺にも、上地古窯跡群と呼ばれる三基の窯跡があり、堤ヶ入古窯もそのひとつです。

この窯は、灰や焼き損じ品を捨てた灰原が部分的に調査されたのみで、窯本体の構造については不明ですが、約二十五メートル北方にあった上矢崎古窯の例から丘陵斜面を利用したトンネル状の窯跡と考えられ、下方の燃焼室で燃料の木材を燃やし、斜面を駆け上がりながら火力を高めた炎を使って焼成室で焼き上げたものと思われます。

ここでは、草木の灰を溶かした釉薬をかけ、緑色に焼き上げた灰釉陶器の碗や皿を主に作っていました。

灰釉陶器は、平安時代に猿投山西南麓で生産が開始された高級陶器で、その生産の拡大と西三河の窯業を考える

上で貴重な文化財といえます。

2、畔柳五郎工門翁

（大谷公園下の池芝生内に寂靜寺から移転）

畔柳五郎工門翁頌徳碑

畔柳五郎工門八嘉永六年正月八日愛知縣額田郡福岡町大字上地九十三番戸ニ生ル生来慧智至誠ノ人
明治二十三年選バレテ額田郡會議員トナル當時天白用水水利組合治水委員ニ擧ゲラレ同用水引込口ノ
板堰ナルヲ石張堰ニ替フルヲ利トシ之ガ設計並ニ工事ヲ竣工セリ其効果多大上地南部ノ用水ヲ充タシ
同方面ノ田ヲニ毛作田トセリ
明治二十七年本多與八小林善四郎本多九市郎氏等ト議リ大谷坂砂防地ニ灌漑用水溜ニ改造シ新溜中溜
ヲ田ニ變換シタリ

明治三十二年土管伏越工事ヲ起シ堤入大谷坂溢田ノ三用水ヲ増築シ上地北部ノ土地大略ヲ田ニ變換シ
而シテ其ノ噴水ハ向山新井福岡小畑ニ迄沾シ得ルトナシ私財ヲ投シテ之ガ成工ヲ誓ヒ其ノ目的ヲ達成セ
リ數年後ニ於テ水量ニ不足ヲ來シ桑園化セルヲ遺憾トナス嗚呼氏ノ如キハ心力ト私財トヲ公益ノ為メニ
盡シ細世ノ實ヲ擧ゲ以テ後世ノ裨益ヲ計レル者ニシテ其智謀ノ卓越セルヲ追憶シ茲ニ其ノ功績ノ一端ヲ
記スト云爾

無き君の心の程を知る者をやむに止まらず古運能石ふみ

伊野鯉之助書

昭和二十八年八月建立 上地有志

永歌 稲石藤六

3、第一回「上地八景」を歩く会の日程

（国道二百四十八号線以東のコース）

一、日時 平成五年十一月十四日（日）午前八時半～十二時

二、目的 国道二百四十八号線以東の「上地八景」を訪ね、学習を深めると共に、会員相互の親睦をはかり、合わせて心身の健康増進を目指す。

三、日程 上地小学校（八時半）

← 奥山田池（八時五十分・野鳥観察―講師若松東の齋藤かをる様―）

← 矢崎憩いの緑道（九時十分・小休憩）

← 大谷公園（九時四十分・堤ヶ入古蹟跡の学習―講師岡崎市学芸員荒井信貴先生―）

← 上地配水場（十時五十分・配水場の学習―岡崎市男川浄水場大山繁担当係長―）

（十一時五十分現地解散）

4、奥山田池に集まる野鳥たち

（斎藤かをるさんの観察記録から）

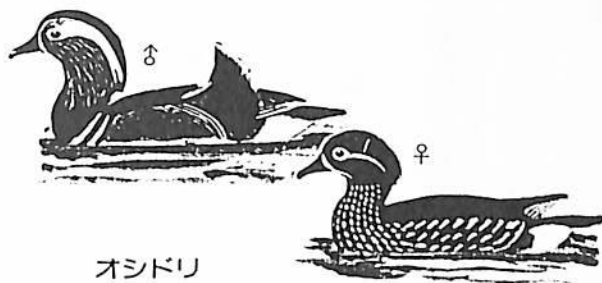
上地八景を歩く会に野鳥の説明をして下さった若松東の斎藤かをるさんから、十一月二十五日（木）午前十時の観察記録が届けられました。

場所は奥山田池です。

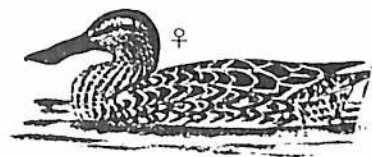
「この一週間程、オシドリが住みついているんですよ。ぜひ、皆様もご覧になって下さい。野鳥好きな上地っ子の皆さんとも一緒に見えています。今なら、昼間行けば、きっと観察できます。」

斎藤かをるさんのお話です。

オシドリ	四羽	マガモ	十四羽
ダイサギ	一羽	カルガモ	十一羽
アオサギ	一羽	ハシビロ	三十三羽
コサギ	二羽	カワウ	三十羽



オシドリ



ハシビロガモ



カルガモ

『上地学区探訪』—学区の石碑調べ— 五年一組—

私たち五年一組が、この一年間学級活動として取り組むテーマは、『上地学区探訪』です。上地っ子のふるさとを少しでも知り、身近に感じることができたらと考えました。一学期の「上地っ子文化祭」では、学校や学区のことを調べてすぐろくぐらムにする「スーパ―お茶の間すぐろくランド」を成功させました。二学期は、担任の高橋先生が習字の時間に、拓本、を見せてくれて、皆が興味を持ち、やってみようということになりました。

まずは、学校にある石碑の拓本を採りました。「力いっぱい」や「とべ上地っ子の像」、そして「友情の木」の石碑など、ふだんは見過ごしてしまう石碑が意外にたくさんありました。拓本を採って、それを自分たちで裏打ちしてみると、

「力いっぱい」の碑の文字は力強く、上地っ子が力いっぱい活躍してくれることを願っているようだ。」
 という思いが、伝わってきました。

さて、いよいよ学区にある石碑への挑戦です。二〜四人一組になって、それぞれ別の石碑の拓本を採りに行きました。それまでに、学区にはどんな石碑があるかを調べたり、その石碑にはどんな内容の文字が刻まれているのかを「ふるさと上地」などで調べてみました。難しい漢字がたくさんあり、初めのうちは何のことかさっぱりわかりませんでした。漢和辞典で調べたり、先生に聞いて、やっと大まかな内容が理解できました。明治時代に建てられ、苔がついている石碑があったり、「日蓮」や「源範頼」という歴史の本に載っているような人物が関係していたり、発見することばかりです。

せっかく拓本を採ったりきれいに表装をしたのだから、もっと多くの人に知らせたい。そこで学級会を開いて、みんなで話し合いました。ちょうど授業参観の日で、お父さんやお母さんの前で、自分たちの意見を発表し合いました。みんな緊張していたけど、とてもいい意見がたくさんでました。話し合いの結果決まったことは、

- ① 拓本のことをビデオにとって、全校のみんなに知らせたい。
- ② ふるさとシリーズに載せて、学区の人に知らせよう。

ここに、②で決まったことが実現しました。原稿の内容は、調べた内容を自分たちで分かりやすくまとめました。これを読まれて、私たちの知らないことがあつたら教えて下さい。

子供たちは実に真剣に、一生懸命に取り組んでいました。また、こんなにも難しいことを、楽しみながらできたことが良かったと思います。

どうぞぜひ一読下さい。担任 高橋

上地学区にある石碑 上地小5の1の調査による

場所	石碑名	碑文の大きさ	調べ学習・参考資料	調査した人	拓本を採る人
上地八幡宮	うなり石	90×45センチ	ふるさと上地4P86・松風のうた	小林・伊久間	伊久間・伊藤
	慰霊の碑	70×150センチ	H5上地だより6月号	荻原・さやか	荻原・さやか
	慰霊の碑・碑文	80×120センチ	H5上地だより6月号	荻原・さやか	伊久間・伊藤
	慰霊社	25×125センチ		田口・桃井一	
	奉納・神馬の碑文	35×60センチ		田口・桃井一	真野・桃井一
敬神・愛国	28×50センチ		真野・金澤・円山	橋本・家城	
顯成寺	顯成寺の田采			宝珠山・鶴田・原田	
	清水			宝珠山・鶴田・原田	
	寂靜寺の田采	70×120センチ	ふるさと上地4P47・八景はがき	辻村・名見郎	辻村・名見郎
	老人ホームの納	130×94センチ	福岡小・鶴集	青木・内田	青木・内田
	われの血も受けて	70×120センチ		野口・小嶋	磯村・円山
大谷公園	畔柳翁頌徳碑	70×95センチ	ふるさと上地4P69	望月・島田	望月・島田・後藤
	完成記念	120×60センチ		後藤・伊藤	田口・小嶋
	事業の沿革	100×80センチ		後藤・伊藤	包坂・天野
	平成の泉・田采	100×85センチ		包坂・由紀	由紀・小林
記念公園	かげぼうし	150×200センチ		長江・柴田	長江・加藤
	完成記念	115×70センチ		松井・永田	永田・野口
	事業の沿革	52×80センチ		松井・永田	永田・野口
舌松公園	上地学区の地図	90×80センチ	巻「上地の鳥ひけ」ふるさと上地6	磯村	松井・金澤
	市制施行60周年			橋本・家城	
豊山田遊園	敬天愛人			居福・小石	居福・小石・柴田
	事業の沿革			居福・小石	居福・小石・柴田
豊山田遊園	記念山田池改修	90×50センチ	ふるさと上地4P24・5P24	加藤・天野	
	豊山田遊園	80×35センチ	ふるさと上地3P55	加藤・天野	
児童公園	藤六の地蔵・道標		上地資料P82・ふるさと上地4・6	松井	
旧小畑	首切り地蔵・道標		兼任誠先生遺徳の本	小嶋	

● 十八公八公園

○ 畔柳翁頌徳碑

▲後藤真理子・島田麻美・望月愛▼

みなさん、大谷公園にある「畔柳翁頌徳碑」を知っていますか。大谷橋をくぐって少し行った所に、ひっそりとその碑は立っています。この石碑は、昭和二十年八月にできました。この石碑には、畔柳五郎さんの生い立ちが刻まれています。畔柳さんは大谷坂砂防地を灌漑用ため池に改造するために、自分の財産を使いました。それでも、町の人達に反対されたり、水不足で水田が桑畑になってしまったりもしました。しかし、何年も何年もかかって少しずつでき上がっていききました。後々、この功績が認められて、石碑ができました。大谷公園へ寄つたら、一度見ていってください。そして、目を閉じて考えてください。きっと何かが見つかるはずですよ。

○ 「平成の泉」

解説詞文

▲桃井由紀・小林祥子▼

みなさんがよく知っている「平成の泉」は、名前のとおり平成元年にできました。この平成の泉は、区画整理事業完成を記念してできたものです。解説文に書いてある内容は、「大谷池が汚染されないように、組合完成記念事業として噴水を設置し、平成の泉と命名しました。たくさん人の憩いの場として、みなさんが見てくれるのを願っています。」



拓本を採って思ったことは、解説文の文字が浅く彫ってあるので、うまく文字が浮き出てこなくて難しかったです。それに、他の人のようなタンポンではなく固い墨でこすったので、手が痛くて、しかも黒くなってしまいました。でも、噴水を見ていたら心がなごんできました。

○ 完成記念の碑へ小嶋巨治・田口良樹▽ 事業の沁込草 ▲天野麻由・匂坂陽子▽

この「完成記念の碑」は、上地の第二区画整理事業が完成した記念にできた碑です。「ついに完成した」と、自慢して見せているような字です。

その裏には、事業の沿革が刻まれていました。南北の交通量を少しでも緩やかにするために、二四八号線ができました。その他にも上地の歴史が書いてあります。この区画整理事業を進めるにはたくさんの障害もあり、事業がなかなか進まずに困ったということが書いてありました。

上地小学校が十一年前に生まれたのも、この区画整理事業のおかげです。他にも市民ホームや子どもの家、勤労福祉会館など、昔山だった上地が、ずいぶん変わりました。区画整理事業を進めてくださった人たちのおかげです。だからこんな立派な石碑ができたんだと思います。

○ かげぼうし ▲長江 脩・加藤真委▽

このかげぼうしも、平成元年企画整理事業の完成記念にできたものです。晴



れた日は、影を使って時間を調べることもできます。使い方は、かげぼうしの下の方に書いてあります。方位のイニシャルも書いてあります。くわしい場所は、完成記念碑のとなり、つまり、大谷公園の遊具と衣浦岡崎線の間ぐらいです。

感想は、拓本を採るのにすごく時間がかかったけど、楽しかったです。他の人と違う所は、地面にあるのでそこへ、紙を載せます。大きくて、風で飛びそうになり苦労しました。みんなも一度、かげぼうしを使って時間を調べてみてください。

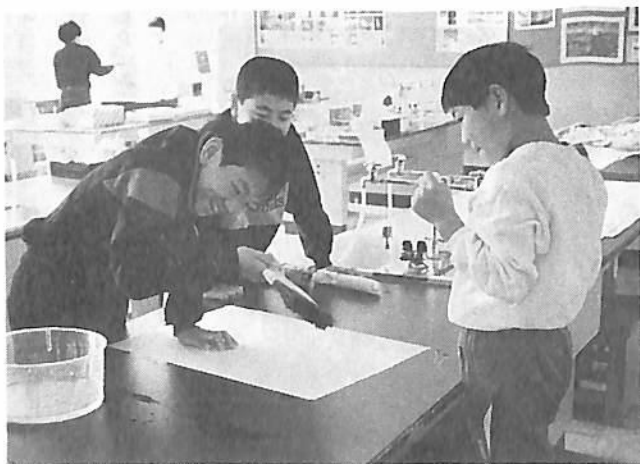
● 上地八幡宮

○ 神馬の碑 ▲真野孝二・桃井一▽

ぼくたちは上地八幡宮に行き、たくさんのお碑があることを知りました。その中の二つの石碑の拓本を採りました。まず一枚目は、奉納です。この文字にどういう意味があるかという、神や仏にお供えをする、です。そう言えば、お寺や神社に行くときよく見かけます。

もう一枚は、神馬の土台に彫ってある文字です。源義経の兄にあたる源範頼が上地八幡宮の社殿を建てました。社殿とは、神社で神体をまつてある建て物です。それから八百年を記念して建てられたのが、この神馬です。

戦で戦った馬のように見え、勇ましかったです。上地八幡宮が、歴史的にこんなにも古い神社だということを知って、驚きました。二枚とも上手に拓本が採れたので、満足しています。



○ うなり石の解説文 △伊藤有希・伊久間佳菜▽

このうなり石は、江戸時代のもので、うなり石が、今どこにあるか知っていますか。今は上地八幡宮にありますが、昔は大谷坂にありました。大谷坂にあったものが、一度、土呂八幡宮に運ばれました。どうして移されたのかはわかりませんが、その後、上地八幡宮に移転されました。

嶋田前校長先生の創作童話『うなり石』には、こう書いてあります。

昔、ごへいさんという人がいて、女の人のうなる声が聞こえてきたので村に逃げました。ある日、その場に行ってみると石だけしかありませんでした。それから村の人はその石を、うなり石と呼ぶようになりました。

私たちは、うなり石のことを調べて、いろいろなことがわかりました。うなり石の所に行ってみると、何か音がするかもしれませんが。みなさんも一度行ってみてください。

○ 慰霊の碑 △鈴木亜弥・鈴木さやか▽

この石碑は、平成五年六月二十日に建てられました。戦争で亡くなった人の魂を慰めるために、建てられたというものです。慰霊の碑の裏には、戦没者名が書かれてあり、そのほとんどは上地一区の人でした。それは、他の区は、昔は山や畑で住宅が少なかったためです。日清戦争、日露戦争、大東亜戦争の戦没者を慰



霊し、世界平和を願うために建立した石碑です。

拓本を採って思ったことは、初めは文字のまわりが、墨のついたタンポンでたたいてもきれいにうつらなかつたけど、やっていくうちにだんだんできるようになりました。思うようにできるようになったら、楽しくて自分から進んでできました。

○ 敬神・愛国の碑 △家城和宏・楠本淳一▽

敬神・愛国の石碑は、今から七十三年前にできたそうです。上地八幡宮は神社なので、自分の国を大切にするようにこの石碑が建てられたのだと思います。国を大切にするという願いが込められているなんて、すごいいい石碑だなと思いました。拓本を採って思ったことは、タンポンでたたく時に力の加減が難しくて濃くなったり、薄くなってしまったことです。次に、石碑がすごく深く彫ってあったので、タオルで紙を押さえるのがとても難しかったです。

● 願成寺

○ 願成寺の由来 △宝珠山智帆・鶴田千咲子・原田奈穂美▽

この石碑は今年にできた新しいものです。建てられた理由は霊を弔うためだそうです。書いてある内容は、日蓮聖人のことと願成寺のことです。

日蓮というのは、人の名前です。聖人というのは、偉いお坊さんのことだそうです。日蓮聖人の石像があり、それは日本で最大の大きさです。昭和三十四年にできました。重さは、五十三トンもあり、高さは七メートルと書いてあります。石像の下には、納霊堂があります。日蓮は漁師の子として生まれ、十六才で出家しました。そして、安国論を書きました。修業を重ね

とても偉いお坊さんになりました。

願成寺は一三六五年にでき、昭和二年に鈴木良海さんが豊田の広瀬から現在地に移しました。本堂は、大久保彦左衛門一統によって寄進されたものを、同じ昭和二年に美合から移しました。

私たちが拓本を採って苦労したことは、風が強くて紙がはがれやすかったことと、日が良くあたるので、ぬれた紙がすぐに乾いてむらができ、大変でした。風で紙が飛ばされた時は、お兄さんが手伝ってくれました。

石碑は、いろいろな理由で建てられていることがわかりました。見つけたら、ちょっと読んでください。

● 寂靜寺

○ 寂靜寺の由来 ▲辻村 真・名兒彰洋▼

この石碑は明治三十二年建てられ、今から約百五十年前の古い石碑です。ぼくたちが拓本に採ろうとした時、石の表面にはずいぶん苔がついていて、それを取るのに苦労しました。それに、文字も薄くて、拓本を採るのに苦労しました。でも、一枚目にすぐくうまくできたので、満足しています。

石碑の内容は、日本の歴史上有名な聖徳太子が作ったという木造阿彌陀如来像が置いてあるということです。また、蓮如上人の孫にあたる実円上人の遺骨が納められていると伝えられていることなどです。歴史的に価値のある石碑だと思いました。

○ 老人ホームの詩 ▲青木美和・内田美季子▼

伊藤葉子さん(この詩の作者)が、老人の独り暮らしについて深く考え、老人ホームを作ろうと思ったことが書いてあります。その詩の中には、老人に対する思いやりの心が表れています。けれど、伊藤さんは十七才の時に交通事故に遭って亡くなってしまいました。そのため、父の伊藤金次さんが何か残したいということで、寂靜寺の土地を一部借りてこの石碑を建てられたそうです。なぜその場所に建てたかという詩の中にあつた老人ホームが、そこにあつたからだそうです。

この石碑はとても大きくて、三枚も紙を使わなければいけなくて苦労しました。それに、風が吹いてくると、しわが入ったり破れたりして大変でした。それでも楽しくて、「やった。」という気持ちです。

○ われの血も受けて法燈守りゆく

▲磯村翔陽・円山 徹▼

この石碑が建てられたのは、今から七年前です。石碑の最後には、助一という名前が書かれてありました。きっと助一さんの思いが、五七五七七の詩になっていると思います。この石碑の隣には墓地があり、亡くなられた人の霊を大切に弔おうとする気持ち伝わってきます。拓本を採っている時、風が強くて採りにくかったけど、きれ



いのできたのでとてもうれしかったです。

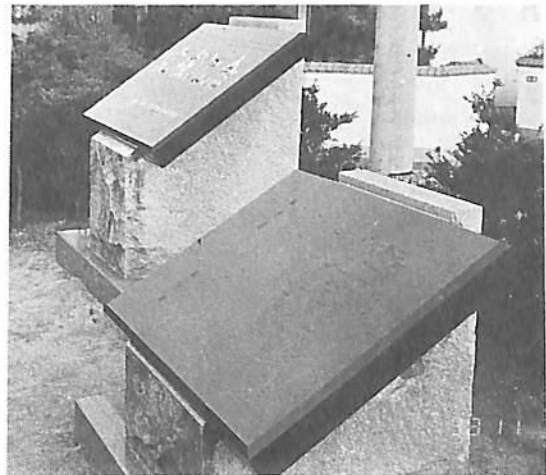
● 記念心八公園

○ 完成記念心の碑

△永田拓章・野口祐一▽

この石碑は、平成元年、今から五年前に建てられました。表には大きく「完成記念」と刻まれています。裏には区画整理のことや新しく上地町ができたことなどが刻まれています。区画整理をしたおかげで、みんなの生活に必要な郵便局や銀行、そしてドミニーも出来ました。

記念公園の「完成記念」の碑は、上地第一組合の区画整理事業が完成した記念に建てられました。第二組合の完成記念の碑は、大谷公園にあります。範囲が広いので二つに分けたそうです。



○ 上地町の地図

△松井祐輔・金澤賢治▽

この碑は平成元年に、「完成記念」の碑と並んで、区画整理事業の完成記念に建てられました。表には昔の上地の字名や今の上地の何丁目かがわかります。裏には、上地の土地がどれくらいの広さが書いてあったり、この公園を作るためにどんな人達が協力してくれたかが書いてあります。昔の字名には、「馬乗」や「馬出し」、「馬不入」などの馬のつくのがあっておもしろかったです。嶋田前校長先生の創作童話『上地の馬かけ』には、昔の生活では、馬が荷物を運んだり農耕作業には欠かせないものということが書いてありました。

拓本を採った時、文字が浅かったので、先生から「乾墨」を借りて、上からこすって採りました。

● 若石松公園

○ 「敬天愛人」の碑

△柴田始・居福健太郎・小石秀昭▽

みなさん、この石碑を知っていますか。どこにあるかというところ、若石松公園の遊具の近くにありますが。この石碑は、昭和四十七年三月八日にできました。「敬天愛人」という意味は、文字のとおり、神様を敬い人を愛するということです。

この石碑は、若石松の区画整理事業がうまくいった記念で建てられたそうです。上地の区画整理よりも、十年以上も前に完成したということです。

拓本を採って思ったことは、「敬天愛人」の文字がすごく深く彫ってあって、とても苦労しました。日も良くあたり、足場の石が少なくてふらついてしまい、やりづらかったです。裏には、この石碑ができたきっかけや区画整理事業の沿革などが細かく書いてありました。とてもダイナミックな石碑で、ながめていると心がおおらかになりそうです。

これらの拓本を採ったり、自分たちで表装をするなんて、生涯忘れられない体験です。ひよっとして、将来は表装師にでもなるんだろうか、と思われるような手つきの良い子もいました。これらの体験があったからこそ、「ふるさとシリーズ」に、子供たちの力で原稿が書けたと思います。



六年生になれば、委員会活動やクラブ、部活動などの学校組織の中心的存在になり、六年生の行動力しだいで、学校の活気が変わってくるといっても過言ではありません。それだけに、子どもたちの行動力や創造力をつけていくことが重要になると考え、学級活動に力を入れて指導をしてきました。また、毎日があわただしく過ぎていくからこそ、少しでも学校を楽しく感じるようにしていくことが必要なのではないのでしょうか。このために、学級で一つのテーマを決め、学級の文化活動として取り組んでいくことにしました。

六月に行われた上地っ子文化祭をきっかけにして、学級活動のテーマの方向が決まりました。いろいろな案が出され、最終的には、上地の魚と植物に決まりました。そして、正式なテーマとして、「ブランド・フィッシュ」を代表委員会に登録しました。そして、級訓である「協力」がサブ・テーマであることも学級会で確認し、意識を高めてきました。



柳川での生物採集

・クラス入会員による調査員活動（柳川）

上地っ子文化祭では、学区を流れる2つの川のひとつである柳川にいる魚を調べることに決まりました。学区の境にある小さな小川で、田んぼの近くを流れているので比較的きれいな水です。2年生の時の理科や5年生の学級活動で行ったことのある川なのでなじみはあるようですが、詳しく調べるのは初めてになります。採集方法は、実際に川に入って網で採るといふものです。川の深さは深いところではひさままでなので、採集するには適した川なのです。

この時に採集されたものは、資料にあるものです。ここで注目するところは、メダカがたくさん取れたこと、水中昆虫が多かったということです。また、以前の調査と比べると種類が減っていることです。これについて、子どもたちも興味を持ったようです。中には、初めて川に入った子や、オタマジャクシをさわられるようになった子などよい経験にもなりました。

・学区の生き物

一学期は、「学区の生き物をさらに知ろう」というテーマで一学期に行われた上地っ子文化祭を受け継いでいくことになりま

上地の水中生物

場所	見つかった生き物（以前見つかったもの）
奥山田池	アメリカザリガニ、タニシ (コイ、フナ、ブラックバス)
砂川	キンブナ、ヘラブナ、アメリカザリガニ、モズクガニ (ブラックバス、コイ)
大谷池	ブルーギル
柳川	メダカ、フナ、モツゴ、オタマジャクシ アメリカザリガニ、ミスカマキリ、タイコウチ (タナゴ、ドジョウ、カワムツ、ヨシノボリ、タモロコ)

した。運動会シーズンで初めは活動らしい活動はできませんでしたが、一学期に頑張ってきたことをあれだけで終わらせるのは、もったいないという考えで、このテーマに決められました。子どもたちの考えでこのテーマが決められたことに注目しています。

・砂川の調査

砂川は、学区内を流れるもうひとつの川です。この川は、学校から五十メートルくらいしか離れておらず、調査に行きやすい川です。奥山田池を起点とする川ですが、生活排水が流れ込み、流れもほとんどないことからゴミがあったり、泥がたまっていたり、あまりきれいな川とは言えません。しかし、生き物がまったくいないわけではないので、そこを係の提案でクラス全員で調査をすることになりました。

住宅街のなかにあるので、護岸工事がされ両側はコンクリートブロックの壁となっています。始点の部分に、池から流れ出す勢いを止める水だめの部分があり、そこに小魚が泳いでいるのが見えます。普段は、池からの水がほとんど流れていないので、ひざぐらいの深さになっていることや流れがないことで調査もしやすかったです。

ここは、以前にも二度ほど調査をしています。最近では、自分が担当している生き物研究クラブが春に調査をしました。クラスの数人も加わっているので、一回目の子もいます。その子たちから前の調査との違いを聞き、比較したまとめとなるとよいでしょう。春とは大きく違いが出て、小ブナであるがキンブナ（ハラブナも混じっていると思う）がたくさん取れました。そして、オオクチバス（ブラックバス）が一匹も取れなかったのが意外でした。

この活動で、一人一人が活動することを思い出すきっかけになったようです。そして次からの活動をより効果的にするために活動の記録を取らせるようにしました。これによって、子どもたちの意識をいろいろなところに向けさせたり、自分自身で活動の確認ができました。

・計画委員会

本学級には、生き物に関する係や当番があります。係では、生き物を持ってくる係があり、当番では、飼育当番があります。その人数を合わせると七人になり、それに学級代表を加えた九人で計画委員会を組織しました。これは、今後の活動をより効率よく確実に進めていくために、リーダーを決めるためです。

組織を作るにも、グループから作る方法や活動の内容を決める方法などいろいろな作り方があるため、子供たちもかなり頭をひねったようです。最終的には、グループをまず決めることになり今までの調査を深めるためにも魚を調べるグループと、植物や虫を調べるグループは残し、今まではやってこなかった鳥を調べるグループを加え、三つのグループで組織していくことになりました。そして、計画委員が三人ずつ各グループに入り、リーダーとしてまとめていくことになりました。

三つのグループを組織することで一人一人の活動が多くなることも利点です。そして、計画委員会が発足されて初めての活動として、クラス全体で、リス探しをすることになりました。

・大谷公園のリスの調査

各グループの活動を軌道に乗せるために、クラス全体の場で、大谷公園にリスがいるらしいと話をしました。大谷公園は学校か



図書資料を使った調べ学習

ら歩いて十分くらいのところにある、小さな森の一角にあります。いろいろな場面で活用され、子どもたちにとってなじみの深い場所だけに、驚きが大きかったようです。その分活動に対しての興味がわいたようです。当日は、計画委員の子がリスについての説明、班の分担と調査場所の指定、調査のポイントを説明してくれました。中には、木の上を探したり、ドンダリの割れているのもやふんを見つけた子もいました。しかし、これが本当にリスの物なのかどうかはわかりませんが、夢がふくらみました。

・鳥グループの活動

冬に近づく二学期は、生き物にとっては活動がにぶる季節です。植物や虫、魚は調査するのは難しくなってきました。そうなるとうちでも中心的活動になるのは鳥になります。でも、これは小さいうえに人間から離れた場所にいることから見分けるのに大変苦労をすると思います。しかし、これにあえて挑戦することは子供たちにとっても大切だと思うし、今まで知らなかったことを発見することで興味も増していくでしょう。

鳥グループの子たちは、クラスのバード・ウォッチングのために、鳥の知識を本やビデオを使って得ていました。それならばと学区にいる野鳥の会に入っている人がいることを教えると、その人に教えてもらいたいということになりました。そして、子どもたちだけで実際に家を訪ね、お願いをしました。その後、日を決め、大谷公園に行き、実際に教えていただきました。鳥グル



齋藤さんの指導のもと大谷公園で野鳥観察

ープの子たちは、授業後もつかって、学区内の鳥のいるところへ観察に行き、ビデオも撮ってきました。

一学期の初め、鳥、魚、植物、三つのグループに分かれ活動を始めました。分け方は、学級代表と飼育係を中心に、計画委員会を開き、グループごとの班長とグループを決めました。私は、鳥係になり、竹林さんと山田君と班長になりました。最初はとても不安でした。鳥のことについて何も知らない私が班長になっていいのだろうかと思いましたが、不安をもちながら鳥係の計画を始めました。

まず、最初に近くにある大谷公園に行き、観察をすることになりました。先生にそのことを話すと野鳥の会の齋藤かおる先生を紹介して下さいました。そして、大谷公園に行くことが決まってから、持ち物を準備したり、本で大谷公園にいそうな鳥を調べたりしました。そして、当日になり、齋藤かおる先生と大谷公園に行きました。私たちが鳥の声を聞いても何の鳥かわからないけど、齋藤かおる先生は一回鳥の声を聞いただけで何の鳥かわかるのです。それにはとても驚きました。次の日、いた鳥を調べて今度はビデオを撮りに行くことにしました。あまりうまく撮れてい



奥山田池で水鳥の観察

なかったので、もう一度撮りたいと思います。今までは、家などでも鳥の声を気にしなかったけれど、今は耳をすませばたくさん入ってきます。上地にいる鳥のことについてわかったのはこの鳥係のおかげです。(村松 なおみ)

・魚グループ

魚グループも活発に活動を行っています。川が終わったので、池について調べ始めています。まず、大谷池。この池は二つあり下の池を調べました。ここでは、ブルーギルがたくさんいることがわかりました。ほかの魚や生き物がいるかどうかはわからなかったのですが、予想にとどまっています。

次に奥山田池。浅いところを探るだけにとどまっただけですが、その時は池の水が濁っていて調べやすかったようです。ここでは、アメリカザリガニ、タニシしか見つからなかったのですが、もう一度調べる予定です。

これらの活動をしてきて、その間に柳川にはほかの魚がいたという情報を得て、もう一度詳しく調べたいということになり、計画をたてています。

私たちは、今までに調べられた以外の魚をとることか、自分たちが見つけることができなかった魚をさがすことが目標にありました。だから、自分たちで、手作りのあみを作ることにしました。あみ作りの代表者で、川のはば、深さ、を測り、設計図を書きました。そして、みんなで竹をさがして切り、火で竹を曲げました。この作業をするために、授業後がんばりました。まだあみは作りかけだけど、早く完成させて調査をしたいです。

私は、この魚係になったおかげで、今まで見たことや知らなかった魚の名前や特長がわかってよかったです。これも文化祭でみんなが魚に興味を持ちはじめたのがきっかけです。魚係があったから一人一人が勉強になり、とてもいい経験ができたと思います。

験ができたと思います。

(増淵 早苗)

・植物、虫グループ

このグループは、季節がら活発な調査活動ができないので、過去に行った調査の資料を元に調べ活動を行っています。

私たちは、植物についていろいろ調べていきました。初めは何をしていいのかわからず、サボテンとかひまわりとか基準になるもの考えずに、調べていました。なやんでいると、先生はヒントをくれました。そこで、テーマのことや実際に調査をしようと考えました。

私たちは、さっそくいろいろなどんぐりをさがしてみました。大谷公園は、どんぐりがたくさんありました。たくさん持ち帰り、栽培をしてみました。水栽培と土栽培をしてみました。水栽培は、芽が出たけど、すぐくさってしまいました。土栽培は、芽が出たけど、葉が開かず、枯れてしまいました。どうしてか悩みました。結局よくわかりませんが、どうやって実際にやって悩んだりするのは、とてもいいことだと思いました。

(口廻 陽一)

このグループの中には、リスを引き続き調べている子がいます。校長先生をお誘いし、大谷公園の近くの家庭に聞き取り調査に行ったりしていますが、まだ正確な情報はないようです。このように子どもたちは、いろいろな活動を通して、生き物についての興味を深めることができました。特に、今まで注視してこなかった目を向けることのできるようになったことや自分たちの住んでいるところにも多くの生き物がいることに気づくことのできるようになりました。またこの活動は終わっていませんが、これからも上地の生き物について興味を持ち続け、かみかみなどに対しての気持ちや知識を深めていってほしいと思います。

十八年二組の指導をして下さった斎藤さんから

水鳥の調査結果をいただきました。

調査した日 一月十五日

南公園	マガモ	一〇二	大谷池	カルガモ	五五
	オシドリ	四		カイツブリ	一
東楽園	コガモ	一四	大谷池	コガモ	一六
	マガモ	二	上地湿原	コガモ	五五
奥山田池	ハシビロガモ	八九		カルガモ	二
	マガモ	一〇		ハシビロガモ	二
	カルガモ	四二			
	オカヨシガモ	一			
	アオサギ	三			
	コサギ	一			
	カワウ	三			

(奥山田池では、はじめて見ました。)

別れ近き水鳥たちを見ませんか

若松東 斎藤 かをる

(奥山田池)

二月二十五日巡回文庫に行く途中、奥山田池を見ると、回っている回っている。ハシビロガモがいくつもの円を作って回っていました。西のコンクリートの岸には、カルガモと少しのハシビロガモが休んでいて、西南の砂川水路入口の杭には、マガモ・カルガモがいました。また、枯れてはいるが枝の多い木の下にはオシドリが三羽じつと動かずにいました。

このオシドリは十一月に北から渡ってきてから、奥山田池・大谷池・南公園の池を行ったり来たりしていました。南公園ではマガモと一緒にきれいな姿が双眼鏡なしで見ることができ喜ばれていました。しかし、大雪のあとの十七日に池の管理のせい、いつも休んでいる水面すれの松を四本共切られてしまい、落ち着かなくてか南公園を嫌ってしまつたようです。他に二羽の仲間がいて、五羽で行動したり、別々に行動していたりで、二羽の方は今も南公園に時々姿を見せています。木が切られた日、オシドリは大谷池五羽いたのでカメラでしつこく追い回したら、いやがって北の方へ飛んでいってしまいました。

去年まで家庭排水が流れ込んでいた奥山田池は、カモたちには、『良い食堂』だったようで食事時になると東の排水口付近にはハシビロガモが輪を描き、オシドリまでがそこへ行っていました。今年はそのような光景はなくなっていました。

奥山田池は、カモノの種類がとても多いです。

ハシビロガモ・カルガモ・マガモ・オシドリ（これもカモの仲間）・オナガガモ・コガモ（たまに来る）
オカヨシガモ（今年はじめて見つけたが一週間ほどでいなくなった。）・キンクロハジロが来たこともある。
オシドリの良いいる所

・砂川水路入口

・勤労福祉会館に近く岸が少し入り込んである所の水面にかぶさっている枝の下。（二十七日には五羽休んでいた）

（大谷池）

巡回文庫で本を借りた後、大谷池へ行ってみました。カルガモと少しのマガモがのんびりしていただけでした。日曜などのように釣りをすると姿を消してしまいます。

・オシドリがいる時は、キヤン！場よりの松の枝の下が多い。

二月十一日夕方、この辺りを折れたらしい片足をぶらんと垂らし、一生懸命飛んで行ったコサギは、どうしているだろう。

（上地湿原）

穂やかな日だったので、そのまま自転車で上地湿原へ行ってみました。

北の池は、枯れた葦に止まっていたホオジロらしい鳥が一羽だけいました。水のある南の池からはピリピリッときれいな声が聞こえてきました。葦の根元に岸の土がくぼんだところにうまく潜り込んで、コガモがたくさんいました。近づくと、ピリッ（おす）クエックエック（めす）と鳴きながら水面に出てきます。ハシビロガモ二羽とバン二羽も姿を見せました。

この辺りは鉄砲を撃つことが禁止になっているから良いものの、カモたちは撃たれやすいような習慣を持っているんだなあと思うようになりました。

ゴイサギが一羽日向ぼっこをしている所にタイサギが飛んで来て水面をのぞき込み、カワウが上空を一回りして飛び去っていききました。

岸の草むらからツグミやムクドリが飛び出してきました。

十一時二十分ころ、北の池の方からケケー、ケケーと聞き慣れない声が出て大きな鳥が飛んで来ました。

「何、あわ？」

と東の小川のむこう側に降りるのを見ると、おすのキジでした。ケンケンと元気の良い声なら聞いているけど、ケケーッとカカーッと聞こえるあの声は飛び立つ時や飛んでいる時に鳴くことがあるようですが、聞くのは初めてでした。

コガモのかわいい姿と声を楽しんで、池のほとりを歩いていたらまた北の方からケケーケケーと騒がしい声が聞こえます。今度は六羽ほどが翼を広げて「わーっ」と池の上を過ぎて小川の岸に降りました。

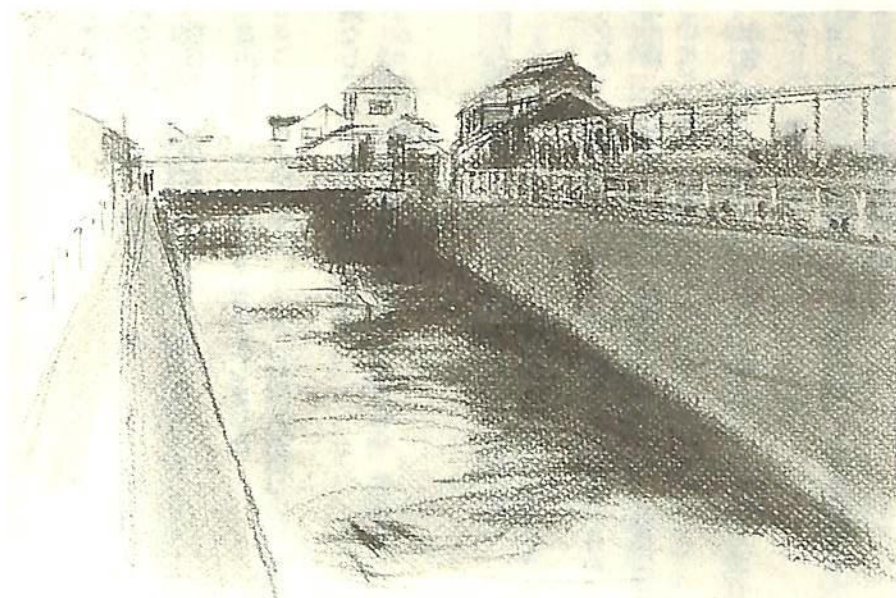
翼をひろげ長い尾羽根を開くようにした姿で飛んで来ました。一羽だけでも圧倒されそうなのに六羽もかたまると飛んでくると言葉も出ないくらいです。

十秒足らずの出来事だったが「桃太郎」の鬼ヶ島の鬼たちは、キジの攻撃には怖い思いをするだろうなと思いました。

キジは、今、おす一羽にめす数羽が群れを作っている時期とのこと。さっき北の池では小鳥一羽しか見なかったのに、あんなにたくさんキジがいたなんて思いもありませんでした。今、飛んでいったためキジたちを見つけようとして、そのあたりへ近づいてみましたが、全然分かりませんでした。

キジは、隠れるのがとても上手いのです。人に見つかりそうになると、さっと低い姿勢になり、つつつと動いてじつと

二、校長通信



砂川 (画: 加納睦久)

水源を奥山田池に発し、広田川・矢作古川に流れ込み、やがて三河湾に注いでいる。「砂川コイ」も群れをなして泳ぎ、夕日に照らされた川面の美しさは思わず人の足を止める。